

第九条の会ヒロシマ

世話人代表 藤井純子 URL: <http://9-hiroshima.org/>
 連絡先 〒734-0015 広島市南区宇品御幸1-9-26-413
 TEL: 070-5052-6580 FAX: 082-255-6580
 E-mail: fujii@jca.apc.org (藤井)
 郵便振替 01390-5-53097 第九条の会ヒロシマ 年会費2,000円

核も戦争もない未来を切り拓くために！



◆10月5日(日)～10月6日(月) アステールプラザ

・主催：核兵器廃絶をめざすヒロシマの会 (HANWA)
核の無い世界のためのマンハッタン・プロジェクト

・参加方法：1日 1500円 2日 3000円 オンライン有
振込等でお支払いください

・賛同金：個人1口 1000円 団体1口 5000円
目標 900万円 (海外・国内招聘、同時通訳費用…)

・振込：ゆうちょ銀行：01380-4-103175
(世界核被害者フォーラム・実行委員会)

広島・長崎被爆 80 周年

核のない未来を！世界核被害者フォーラム

日本国憲法公布から 79 年 11月3日(月・休)

▼原爆ドームを平和のバナーで囲もう！ 原爆ドーム前
12時～(予定)



主催：ヒロシマ女たちの会
連絡先：090-4692-6667 (富樫) 070-5052-6580 (藤井)

▼ヒロシマ総がかり 憲法集会 15時～ 広島弁護士会館

「軍事に頼らない新しい外交で未来を切り開く」(仮)

講演：猿田紗世さん (新外交イニシアティブ)

主催：戦争させない・9条壊すな！ヒロシマ総がかり行動実行委員会
連絡先：090-9060-1809 fujigen@abelia.ocn.ne.jp (藤元)

わたしの安全保障

26 年度防衛省概算要求案は 8.8 兆円。無人機による攻撃など必要か？ 共同軍事演習が西日本・北海道で大々的に行われ、長射程ミサイルやオスプレイ配備、弾薬庫整備等も異常に進む。

「今、あなたが生きていくために大切なことって何ですか」の問いに皆さんがたくさんの安全保障を寄せてくださった。(8.6 意見広告カラー版参照) 決して軍事や核ではない。人も国もそれぞれ違う。話し合い、相手を理解すること、まず安全な食べ物、衣食住。菅原文太さんの沖縄県知事選での最後の言葉は「国の大事な仕事は戦争をしないこと、人々を飢えさせないこと」。そう、命・くらしを守ることだ。憲法学の清水雅彦さんも私の安全保障は「憲法 9 条が存在し続けること」と書かれていた。私たちの仕事は「憲法を活かす」ために何をすべきか必死で考え行動すること。憲法の実現に向けて！

あらゆる核の根絶を、すべての戦争被害者に支援を！

今秋 10 月、被爆 80 年に「核と人類は共存できない」という理念を掲げ、核利用根絶のために「世界核被害者フォーラム」が開催される。世界核被害者大会がチェルノブイリ原発事故 1 年後の 1987 年にニューヨークで、1992 年にドイツで第 2 回世界大会、2015 年に広島で世界核被害者フォーラムと積み重ねられてきた。世界の核被害者のネットワークは広がってきた。

2021 年の核兵器禁止条約発効は核時代終焉の一步を刻んだ。しかしウクライナ戦争、ガザで続くジェノサイド、中東危機の中で核戦争への危機が高まっている。

世界の核被害者を広島に招き、被害の全容を明らかにし、核被害者と、共に闘う人々の国際的連帯の場を作り、救済と人権の獲得のために集う。連帯の絆を結ぼうという大きな目標を掲げている。10 年に一度の開催だしオンライン参加も可能だ。多くの方々のご参加、ご支援をお願いしたい。(文責：藤井純子)

会報126号 もくじ

- 2025年秋 世界核被害者フォーラムを成功させよう！
- わたしたちは、大軍拡・核利用に抗う…………… 藤井純子
- 参院選でのジェンダー政策アンケート…………… 澄川小百合
- 安保法制施行10年一変容する自衛隊と軍事費増大…………… 湯浅一郎
- ストップ！産廃汚染 命の水を守るために…………… 末田一秀
- 8・6ひろしま平和へのつどい報告…………… 大月純子
- 天皇の招爆責任…………… 西岡由紀夫
- 日鉄跡地問題を考える会…………… 会報7号より
- 8.6意見広告報告…………… 世話人から 大道美代子、島村真知子、西浦紘子
- 制作者から…………… 石岡真由海
- 8.6新聞意見広告に寄せられた声 賛同者・会員さんからのメッセージ
- 活動報告 20 お知らせ・後記



25年秋、大軍拡・核利用に抗う

藤井純子（第九条の会ヒロシマ世話人）

8月6日、平和公園入場規制が今年も

平和公園への入場規制は今年も行われた。昨年は炎天下で長時間待たされ入場をあきらめる人も多く平和式典の被爆者席はがら空き。今年は被爆者や遺族、障がい者や高齢者など優先入り口を5か所設けた。また多くの抗議を受け、表現の自由に対して行き過ぎだと思ったのか、手荷物検査を受けて入場すれば、バナーを広げることもできたようだ。日本政府や市政への拡声器による批判は許さん。が、拡声器を持たず静かに訴えるだけならよいということか。多くの警察官が警戒にあたり「平和」公園とは言えない。脅しに従順な市民に仕立てられるのはごめんだ。

広島大学名誉教授の田村和之さんは、持ち物検査自体が違法だとして公園に入場されなかった。「平和公園はいつでも誰でも自由に入れる都市公園であるはずだが、入場させる市民と、入場を拒否する警察がマークする個人・団体など市民を区別している。平和公園を聖域とし市が管理できることしかやらせないというのは、大切な日である8月6日に、市民の表現・言論の自由を侵している。」と厳しく批判されている。

「8.6ヒロシマ平和へのつどい」も昨年同様、原爆ドーム前ではなく北側のピースプロムナードで拡声器を使い、「人間の鎖」を繋ぎ、「グラウンドゼロのつどい」を行った。戦争へ突き進んだ日本・広島への負の歴史を振り返るところから始めねばならない。侵略戦争により、中国をはじめアジアの人々へ多大な被害を与え、無謀に突き進み、敗戦を認めようとしなかったために原爆が投下された。国は原爆を招いた責任を取り、広島、長崎、在外、とりわけ在朝鮮のすべての被爆者に謝罪し補償をするべきだ。（p11 西岡参照）日本は戦後、非軍事・戦争放棄を憲法で謳ったが、戦争の中枢にいた者たちが政治を担い、反省もない。それどころか侵略戦争、強制連行などなかったことにさえしている。国がしないのなら、今、私たち市民で、二度と繰り返さないためにどうするのか追求していきたい。

上関に原発も、中間貯蔵施設もいらない！

中国電力は、上関に原発による使用済み核燃料の中間貯蔵施設について「立地可能」とする調査報告書を上関町に提出した。ボーリング調査で活断層はなく、硬い岩盤があることを確認したというが全く信用はできない。原発建設計画から40年たったが、粘り強い地元の反対の声で進ませしていない。中間貯蔵施設が永久貯蔵にならないかと不安の声は更に増している。にも拘らず町長は人口が減少し産業の振興は望めないとして中電からのお金を当てにしているのだ。2011年の福島原発事故で上関原発建設は中断し交付金が激減した。原発なしの振興策は模索できないものか。原発も、中間貯蔵施設建設も絶対反対！ 祝島の皆さんと思いは同じでこうして過疎地へ迷惑施設がつくられることはたまらない。当会も参加し

ている「上関原発止めよう！広島ネットワーク」は11月29日、青森から中道さんをお呼びし、上関と同じように過疎が進む青森県下北半島の原発、核燃サイクル施設、中間貯蔵施設、米軍三沢基地、陸海空自衛隊の現状を聞く。核施設も軍事施設もない社会をつくるために何ができるか、共に考えたいと準備している。

全国ですさまじいミサイル要塞化

報道で、防衛省2026年度予算概算要求は、過去最大の8兆8454億円と発表された。しかし25年度もそれでは済まない。米国から兵器爆買の「後年度負担」所謂「軍事ローン」、防衛省以外の関連経費を合わせれば10兆円超だと言われている。このお金は福祉・教育に回すべきではないのか。

参院選で改憲政党が躍進したものの与党が過半数割れし、参議院憲法審査会でも立民の長浜博行議員が会長となった。衆議院の審査会と共に改憲には慎重になるだろうが、実質改憲は野党の反対する声が小さく、どんどん進めていくだろう。

昨年「知り、繋ぎ、止める」と精力的に活動している「戦争止めよう沖縄・西日本ネットワーク」のMLを見ると、全国ですさまじくミサイル要塞化していくのがわかる。

8月29日、防衛省は、反撃能力（敵基地攻撃能力）となる長射程ミサイルの配備計画を発表した。「12式地对艦向上型」地上発射型が熊本市の陸自健軍（けんぐん）駐屯地に配備され、横須賀基地に「艦艇発射型」、茨城・百里基地に戦闘機搭載の「航空機発射型」、北海道・北富良野、宮崎・えびの駐屯地へ「離島防衛用高速滑空弾」など。（共同配信）「防衛省は、中国に届くなら沖縄だけでなく全国どこでも発射拠点にするのか」との投稿には驚く。大軍拡への危惧は増すばかりだ。もし防衛省が呉の日鉄跡地を取得すれば、弾薬その他軍事用集積基地として岸壁がフル活用されるのではない。岩国基地での米軍と自衛隊の一体化も果てしない。「防衛」といいつつ、これらの配備が「米国を守る防波堤」となりかねないことなど受け入れがたい。

それに対し、10月19日は京都祝園の弾薬庫建設・長射程ミサイル配備反対集会、11月24日は熊本の同集会、呉も12月20日に「呉を再び軍港にするな！」と行動を計画。呉は、出撃基地として戦争を担ったが、戦後「軍港市転換法」を圧倒的な市民の力で成立させ「平和な産業都市」に生まれ変わろうとした。しかし今、日本製鉄の閉鎖など産業空洞化、人口減少に歯止めがかからない。跡地に防衛省が入れば人も増え活気が出るのではないかと期待をする市民が多く、学習会や空襲展を開催し「軍転法」の価値を理解してもらいたいと苦闘している。（p9-10参照）ヒロシマ総がかり行動も日鉄跡地問題を広島の大きな問題としてとらえ、共に取り組もうと計画している。沖西ネットや九条の会など全国それぞれの地で奮闘している人々とつながって軍事力強化NO！の声を響かせよう。

参院選でのジェンダー政策アンケート



参院選が終わりました。今回で 13 回目だった私たちの「ジェンダー政策アンケート」は、広島選挙区の全候補者を対象に実施し、10 人中 7 人から回答をいただきました。

今回の質問は 6 問。ジェンダー平等の優先度・国連の女性差別撤廃委員会からの是正勧告・選択的夫婦別姓・子どもの性被害・労働における男女格差・女性議員比率のそれぞれについて考えを尋ねました。私たちのアンケートでは、各質問についてそう答えた理由を記述する欄を設けています。それがあつて、その候補者がどのように考えているかをより理解できると実感しています。例えば「はい」と答えているのに、回答理由をよくよく読んでみると、これはかなり「いいえ」寄りの「はい」だとわかる、あるいは、「はい」「いいえ」だけだと自分の考えに近いと感じていた回答が、理由を読むと全く自分が良いと思える考えではない、というようなこともあります。他にも、候補者自身の素直な回答ではなく、「質問者が望む回答はこれでしょ？」と考えて書いていただけということが透けて見えてしまう場合もあります。当然、「こういう回答してくれる候補者がいてよかった！」と思える回答もあります（いずれも私個人の主観です）。

毎回、回答してくれる政党、逆に回答してくれないことが多い政党というのも大体決まっていますが、NHK 党と参政党からは今回も含めてこれまで一度も回答いただけていないのは非常に残念です。両党の候補者は NHK の候補者アンケートには回答しており、ジェンダーに関する質問では、NHK 党の候補者は選択的夫婦別姓・同性婚のいずれも賛成、参政党の候補者はいずれも反対と回答しています。ジェンダーとは少しずれますが（全く関係ないとも思っていませんが）、核兵器禁止条約については両党の候補者とも消極的な回答をしています。なかでも、参政党の候補者が「核を持っている国がいる限り核が無くなる事はない。日本も核は使わないとしても抑止力として持つべきだと思う」と回答したことに、私は強い憤りをおぼえました。

「ジェンダーは票にならない」と言われ続けてきましたが、もはや、そういう局面ではなくなってきました。というよりも、そもそも「票になる・ならない」という話になること自体が疑問視されるべきで、実際ジェンダー政策が自分の権利を守るために切実な争点となっている人が必ずいます。そして、その多くは、大きく声に出すこともできず、「隠れフェミニスト」としてひっそりと、

澄川小百合（ジェンダーを考えるひろしま県民有志）

でも時に心から血を流しながら暮らしているのではないのでしょうか。そのような人たちに「ひとりじゃないよ。ジェンダー政策大事！もっと前進させてよ！って私たちもこの広島という地方都市で思っているよ」と伝えたい。そういう想いもあつて、このアンケートを続けています。

これまでの「のらフェミ通信」で他のメンバーも言及していましたが、今回の参院選前に広島の私たちの活動を知ってくださった WAN（ウィメンズアクションネットワーク）の皆さんが、ジェンダー政策アンケートが全国で行われることを目指しイベントを開催してくださいました。その結果、イベントに参加した方を中心に、各地の有志によって、北は北海道から南は佐賀まで、全国 11 ヶ所でジェンダー政策アンケートが実施されました。

（詳細：https://wan.or.jp/article/show/11949）

さらには「次回はうちでもやりたい！」という声も挙がっています。このようなアクションが全国あちこちの市民から起こることに、仲間が全国各地にいる喜びと心強さを感じます。また、政治家がジェンダー政策をますます無視できなくなることでそれらが前進し、すべての人たちにとって少しでも良い社会になることを願ってやみません。



広島選挙区 参議院選挙2025 7/3公示7/20投開票 **拡散用 (7/8修正版)**

ジェンダーのこと聞いてみました

候補者対象(五十音順) 定員2人 凡例 O…はい X…いいえ

立候補者名	ジェンダー政策の優先度は？	日本の女性差別撤廃条約への姿勢	選択的夫婦別姓の法制化	性暴力・性被害の被害者への対応	労働における男女格差の是正すべき？	女性議員比率を上げる
無所属 上子 亨 さん	回答なし					
無所属 うぶはら としふみ さん	3	回答できない	X	現時点では納得できる回答ではない	本心に不平等と見える状態のかわからない	X
参政党 こいし 美千代 さん	回答なし					
産党 高見 あつみ さん	8	X	O	O	O	O
無所属連合 谷本 誠一 さん	-	O	X	O	X	X
無所属 玉田 憲勲 さん	10	X	O	O	O	X
NHK党 堀 美登里 さん	回答なし					
自民党 西田 ひでのり さん	6	X	X	X	O	O
れいわ新選組 はんどろ 大樹 さん	9	X	O	O	O	O
立憲民主党 森本 しんじ さん	7	X	O	O	O	O

各候補者の理由、解説コメント動画は、[ジェンダーを考えるひろしま県民有志](#)



安保法制施行 10 年—変容する自衛隊と軍事費増大

—それでも憲法 9 条が「専守防衛」を保持している—

湯浅一郎（前ピースデポ代表）

2016 年 3 月 29 日、「平和安全法制」が施行された。存立危機事態という、ほとんど起こりうべくもない状況を想定して、集団的自衛権の行使が可能という法律が動き出し、10 年目である。これを機に、自衛隊は行動範囲を一気に拡大し、指揮・統制も含めあらゆる領域での日米軍事一体化と、多国間共同演習の日常化が進んだ。この間、何が進んできているのかを整理し、中長期的な目標を考える。

1. 安保法制施行後、止まらない自衛隊の変質

1-1 日米韓 3 国共同演習

安保法制施行から 3 か月後の 2016 年 6 月、ハワイ沖で日米韓 3 国ミサイル探知・追尾訓練を初めて実施した。ただし日米艦艇と韓国艦はそれぞれ別々に行動し、情報だけ共有した。2017 年 4 月 3 日～5 日、九州西方海域で海自艦「さわぎり」が米韓海軍と共同で対潜戦訓練を初めて実施した。

そして極めつけは 2023 年 10 月 22 日の日米韓初の 3 国共同空中演習である。米核戦力の 3 本柱の 1 つである米戦略爆撃機 B52H を日米韓 3 国国の戦闘機が 2 機ずつで防護する演習である。B52H は、87 機のうち 46 機が核兵器搭載可能で最大 20 発の空中発射核巡航ミサイル (ALCM) を搭載できる。この演習で空自戦闘機は、その核戦力部隊を防護している。自衛隊が核戦争を遂行できる部隊の一員となり、その後方支援をしていることになる。日本の安全保障を米国の拡大核抑止に依存するといった次元を超え、自らが米核戦力と一体となり、その一員となって行動しているのである。

1-2. インド洋を往復する長期にわたる

インド太平洋派遣訓練の定例化

安保法制が施行後、自衛隊が極東という地理的制限を無視し、自衛艦の長期にわたる海外展開が日常化した。その典型が 2017 年から始まったインド太平洋派遣訓練である。空母化された「いずも」型護衛艦 2 隻を中心として、2 か月半～7 か月にもわたりインド洋から西太平洋に至る広大な海域において、海自艦船が日米共同演習はもちろんのこと、沿岸各国海軍との共同演習を繰り返すのである。明らかに専守防衛を旨とする自衛隊の枠を超えており、砲艦外交の定着を狙った極めて危険な動きである。

1-3 「専守防衛の形骸化」とドクトリンとしての保持

専守防衛の担保は以下三つの分野において必要である。

① 装備の能力

今日的な問題として典型的なのは、「いずも」型護衛艦の空母化、及びスタンド・オフ・ミサイルの配備である。「いずも」型護衛艦を垂直離着陸可能な戦闘機を搭載できるよう改修し、事実上、空母化する。改修後は、世界中のどこかの海からも戦闘機を離発着させることのできる空母となる。スタンド・オフ・ミサイルの整備は「島嶼部を含む我が国への侵攻を試みる艦艇や上陸部隊等に対して、脅威圏の外からの対処を行うため」のスタンド・オフ防衛能力の強化として、敵の射程外からの長距離攻撃ができる巡航ミサイルである。この動きには半世紀近くにわたる執拗な力が働いており、私たちはピースリンクの活動で何度となく闘いの焦点としてきた。例えば、洋上給油できる補給艦「さがみ」呉配備 (1979 年) と 1980 年代の「とわだ」型へのアップデート、強襲上陸用舟艇 LCAC 搭載の「戦車揚陸艦」である「おおすみ」型輸送艦 3 隻の呉配備 (1998 年～)、そして空中給油機の小牧配備 (2009 年～) などである。

② 態勢 (ポスチャー) と訓練

「いずも」が F-35 を常時搭載しないことは重要な「態勢」であるが、F-35 という攻撃能力が高い装備を必要時に搭載できる態勢では専守防衛は揺らぐことになる。情報公開により透明性を高めるべきである。そして 1-1, 1-2 で述べたような共同演習は、それ自体が専守防衛の枠を超えている。

③ 防衛政策、教義 (ドクトリン) として専守防衛を継続

2022 年 12 月 16 日、閣議決定された安保 3 文書の核をなす「国家安全保障戦略」には「平和国家として、専守防衛に徹し、他国に脅威を与えるような軍事大国とはならず、非核三原則を堅持する」との基本方針は今後も変わらない」と明記しており、これは、憲法 9 条の縛りがあるからである。憲法 9 条の存在とそれに依拠した「自衛隊は自衛のための実力組織であって、軍隊ではない」という規定が、ドクトリンとしての専守防衛政策を維持しているのである。

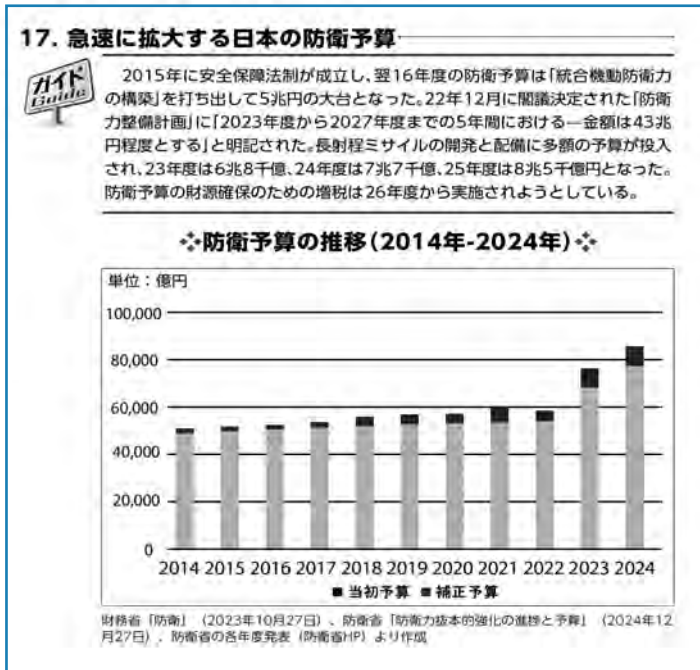
2 急増する世界の軍事費

2022 年 2 月～ウクライナ危機を機に軍事同盟強化や軍事費増が世界的に強まった。ドイツは国防費を GDP 2% 以上に増やすとし、国防政策の転換を表明した。日本では、岸田政権が 22 年 12 月 16 日、閣議決定された安保 3 文書の一つ「防衛力整備計画」で「2023 年度から 2027 年度までの 5 年間における防衛費は 43 兆円程度とする」と明

記した。その結果、23 年度は 6 兆 8 千億円、24 年度は 7 兆 7 千億円、25 年度は 8 兆 5 千億円となった。

最近 10 年の防衛費の変遷図

【ピースデポ刊『ピースアルマナック 2025』198 頁参照】



さらに問題なのは防衛費増は止まらない可能性が高いことだ。トランプ政権が同盟国に防衛費の大幅増を求めている。25 年 6 月 25 日、NATO サミット（ハーグ）で、加盟各国が 2035 年までに GDP の少なくとも 3.5%を防衛費の中核部分に充て、最大 1.5%を安全保障インフラ関連分野への投資に支出するとした。25 年 6 月 20 日には米国防総省ショーン・パーネル報道官が、日本を含むアジアの同盟国の防衛支出を国内総生産（GDP）比で 5 %に引き上げる必要があるとの見解を含む声明を発している。防衛費増は、新設を含む基地の増強（西日本を中心としたミサイル基地、弾薬庫などの増強）、新たな装備や能力の確保（敵基地攻撃能力ミサイル配備、トマホークの購入）、防衛産業の拡大と社会への浸透など総合的な軍拡を支えることになる。

問題は、防衛費を増やせば安心・安全が得られるのか？である。「安全・安心が得られる」とは、相互に信頼感が高まるということであって、防衛費の大小とは関係がない。むしろ、防衛費を増やして、新たな装備や能力を確保すれば、相手からの不信が高まり、＜軍事力による安全保障ジレンマ＞を強めることとなり、かえって軍拡を助長し、緊張を高めるだけだ。結局は防衛費が高いレベルのまま、「安全保障環境が改善されない」だけである。

自衛隊の変質（1-1～1-3）は、憲法 9 条に照らして妥当なのか？ 本誌の購読者には釈迦に説法だが、日本国憲法第 9 条（戦争の放棄）は「日本国民は、正義と秩序を

基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。2 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない」としている。これにより、自衛隊は、あくまでも専守防衛を旨とする実力組織であって「軍隊」ではない。従って 9 条がそのまま保持されている限りにおいて「専守防衛の実力組織」が朝鮮戦争や台湾有事に関与できる根拠は存在しない。

3. ＜軍事力による安全保障ジレンマ＞と「共通の安全保障」

世界、特に「北東アジアは、軍事力による安全保障ジレンマの悪循環」にはまり込んでいる。仮に敵対的な関係にある [A]、[B] という両国がいたとする。A が軍事力による安全保障を強化する。それは、他者である B の安全を侵害することになり、B はそれに対抗して、自分の安全を確保するために、それより強い軍事力を持つとうとする。それを A が見て、より強い軍事力を開発する。これを繰り返すうちに、相互の不信が募り、核軍拡競争に邁進する。その先には止め度のない軍拡と終わりが見えない対立があるこの構造を「軍事力による安全保障ジレンマ」という。

安保法制の施行後、日本が選んでいる道は、安全保障ジレンマを増長させることである。この悪循環から抜け出す方法を編み出さねばならない。その答えは、「すべての国は安全への正当な権利を有する」を原則とし、「相互に尊重し、共に生きる」道をめざす「共通の安全保障」(Common Security)を広げることである。国家が 200 弱(国連 193 か国)ある地球で、人類が向かうべきは、この考え方を世界規模で広げていくしかない。「共に生きる」という方向に向かうことで、＜軍事力によらない安全保障体制＞の構築が具体化する。中期的な時間をイメージし、例えば 2045 年、被爆・敗戦 100 年までに地域の非核化、北東アジア非核兵器地帯を推進することで世界の非核化へ寄与していくなど、「共通の安全保障」を広げていく道筋を描くべきである。

ピースデポでも販売しています。
同封のチラシに必要事項をご記入
の上げひお買い求めください。

定価は 3000 円（税別）
5 冊以上 1 冊 2800 円送料無料
10 冊以上 1 冊 2700 円送料無料



安定型産廃処分場の問題

廃棄物の問題は、今のエネルギーや資源を大量に消費して成り立っている私たちの社会のありようを映し出す。暑い時期、冷えたペットボトル飲料を自販機で買えるのは便利だが、いくらリサイクルしても一部は海にまで流出し、何年後かには魚の量よりも海中の廃プラの量が多くなると予想されている。劣化し微細に砕けたマイクロプラスチックは、巡り巡って食品の中にも混入し、健康への影響まで懸念されている。プラスチックの生産削減に踏み込んだ対策は、国際合意に至らず遅々として進まない。

狭い国土の日本には、世界的にまれにみる密度で廃棄物焼却炉があり、ダイオキシン類による汚染が問題になったこともあった。焼却したとしても残渣が出るので、最終的に処分場で埋立せざるを得ない。廃棄物処理法では、処分場に 3 つのタイプを認めている。有害廃棄物を水と接触させずに埋立する遮断型処分場、底部にゴムシートを敷き汚水を集めて処理する管理型処分場、素掘りの場所でそのまま埋立が認められている安定型処分場だ。

安易な安定型が認められる理由は、処分場に搬入できる産業廃棄物が腐敗・分解などで水を汚染しないとされるがれき類、ゴムくず、廃プラスチック類、ガラス・コンクリート・陶器くず、金属くずの 5 品目に限られているから問題ないとの建前だ。しかし、実際には 5 品目以外のものも持ち込まれたり、5 品目に付着・含有されている汚染物により問題が多発した。廃棄物と接触した水はそのまま地下に浸透していき、排水処理されないのだから当然だ。1998 年に規制が強化され、展開検査や地下

水の監視が義務付けられたが、展開検査は処分場に搬入した産業廃棄物を展開して目視するだけで、汚染物の混入を防ぐことなど到底できない。また、地下水の監視を行って問題が生じても、浄化する方策はない。

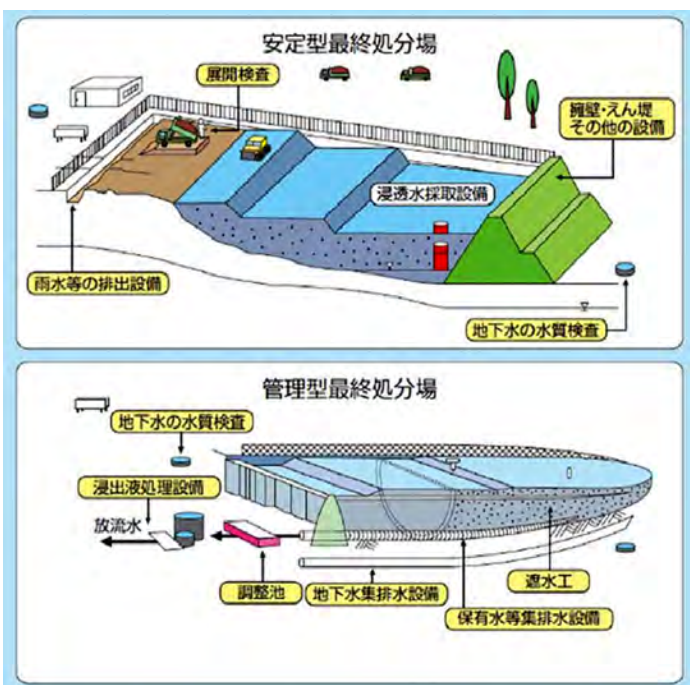
日本弁護士連合会は、2007 年に廃棄物処理法を改正して安定型処分場の区分をなくすよう提言を行った。しかし、2010 年に中央環境審議会廃棄物処理制度専門委員会は報告書で「安定型最終処分場類型を廃止するのではなく、その実態を把握・評価し、安定型 5 品目以外の付着・混入を防止するための仕組みの強化や、最終処分場において浸透水等のチェック機能の強化等について更に検討していくべき」と問題を先送りしてしまった。

三原市本郷処分場の問題

安定型産廃処分場による環境汚染がいま最も問題になっているのが、広島県三原市に産廃業者が設置した本郷処分場だ。処分場設置で土地を改変するため大雨が一気に流下しないよう調整池が設けられているが、そこに廃棄物と接触した浸出水が流れ込み、調整池下流の水路を汚染している。2022 年 9 月の操業開始翌月には、有機汚濁の指標である BOD（生物化学的酸素要求量）が基準を超過。2024 年 7 月には有害物質の鉛が基準を超え、同年 11 月には再び BOD が高い値を示した。広島県は、その都度、搬入停止の行政指導を行ったが、汚染源の特定も行わないまま搬入再開を認めている。住民の方々が裁判に訴えた結果、2023 年 5 月に広島地裁は、県の審査に看過し難い過誤・欠落があるとして許可取消しの判決を下した。しかし、県が控訴をしたため、処分場の操業が続けられている。

環瀬戸内海会議の取組み

環瀬戸内海会議は、瀬戸内沿岸の市民・住民運動をつなぐネットワークである。「リゾート法」によりゴルフ場建設ラッシュが起きていた 1990 年に取り組んだ立ち木トラスト運動を皮切りに、埋め立て反対、海砂採取反対、産廃処分場反対などに取り組んできた。2023 年は瀬戸内法が制定されてから半世紀の年であったので、「瀬戸内法 50 年プロジェクト」を立ち上げ、瀬戸内海の全 326 漁協へアンケートを送付、回答を寄せてくれた 117 漁協から抽出した 66 漁協へヒアリング調査、沿岸の 11 府県の水産部局と環境部局へのアンケート調査も実施し、2 度のシンポジウムで議論を行ったうえで「未来への提言」を取りまとめた。プロジェクトの成果は、緑風出版から出した「瀬戸内法 50 年 未来への提言」と題した本にまとめている。ぜひ一読をいただきたい。（連絡いただければ、書店よりも安くお届けできます。ksueda@nifty.com まで）





さて、環瀬戸内海会議では、毎年の総会を瀬戸内沿岸の運動の現場で開催するよう努めている。今年の総会は、7月12日に本郷処分場を視察し、地元の方と交流を行ったうえで、翌日の午前に開催した。そして午後からは、三原・竹原市民の産廃問題を考える会、環境問題を考える会との共催で環境シンポジウムを開催し、約120人の参加を得た。

シンポジウムでは、広島県が県外産廃の搬入を認めるようになり、以前は関東圏からの搬入の場合に求めている放射能分析も不要と変更した結果、放射性物質も搬入されているのではないかと現地で不安に思っていることを踏まえ、大島堅一龍谷大学教授から問題提起を受けた。放射性物質汚染対処特措法では、福島事故由来放射性廃棄物を扱う環境省が原子力規制委員会の規制を受けていない法の欠陥を指摘された。福島事故以前の廃棄物処理法は、廃棄物を放射性物質による汚染を受けているものを除くと定義していた。このため事故直後にコンクリートブロックを不法投棄したものが福島県警に逮捕されたが、無罪放免となった。廃棄物処理法を適用できないと判断されたのだ。そこで事故の年の夏に慌てて議員立法により事故由来の放射性廃棄物を扱う汚染対処特措法が制定された。原子力規制委員会の発足はその2年後で、法に欠陥が生じているのだ。現在、除染廃棄物は環境省の手により福島原発周辺の中間貯蔵施設に集められているが、将来的に福島県外に搬出するというできもしない約束が交わされている。このため環境省は放射能を含む除染土を公共事業で再利用する方針を打ち出し、首相官邸でデモンストレーションしたりして、監督官庁のない環境省はやりたい放題だ。

シンポジウムでは、続いて私が、これまでの調査で各地の安定型処分場がPFAS（有機フッ素化合物）の高濃度の汚染源になっていることから、汚染を防止するには安定型区分を廃止するしか方策がないことをプレゼンした。以下に詳述する。

急がれるPFAS対策

PFASによる環境汚染は、近年になって明らかになってきたものだ。PFASは1万種類以上あるとされており、撥水性、撥油性、熱や薬品に強いなどの性質から、フライパンや防水衣類、泡消火剤、塗料など多くの製品に使われてきた。一方で、自然界で分解しにくく、発がん性や子どもの成長への影響など人への毒性も指摘されている。PFASのうちPFOS（ペルフルオロオクタンスルホン酸）は2010年、PFOA（ペルフルオロオクタン酸）は2021年に法令で製造と輸入が原則禁止となったが、廃棄物処理法など環境法令では未規制のままである。ようやく来

年4月から水道水質基準に追加され、水道事業者に測定が義務付けられることだけが決まっている。本来、水道水質基準の設定とともに河川や地下水の環境基準を設定し、工場や廃棄物処分場などからの排出基準も決めるのがあるべき姿だが、環境基準などは定められていない。

PFASは表面処理剤、金属メッキ液、工業用精密洗浄液としても使われているので、それらの廃容器である廃プラスチック類、金属くず、ガラスくずが安定型処分場に持ち込まれる可能性がある。他にも添加剤としてPFASが使用された廃プラスチック類、PFAS含有塗料が使用された金属くず、PFAS含有防汚剤が使用された石材（がれき類）、業務用写真フィルムなどが汚染源になると考えられる。

実際これまでの測定では、兵庫県明石川流域の安定型処分場の下流水路で暫定目標値50 ng/Lの2000倍にあたる10万 ng/Lが検出されている。岩手県環境保健研究センターの報告では、安定型処分場の浸出水からPFOAとPFOSの合計で275 ng/L、195 ng/L、261 ng/Lといった数値が検出されている。展開検査のみではPFAS汚染物を除去することも排水処理もできない安定型処分場で取りうる対策はない。これまで要求しても実現しなかった安定型処分場を廃止するしかないのだ。

ところが、環境省は全国の産廃処分場のPFAS汚染の実態調査を行っていないようだ。本郷処分場の下流には、上水道がなく地下水を飲用している家があると聞いた。また、汚染水を農業に使用できないと耕作断念がすでに出ている。したがって、PFAS汚染の実態調査を早急に実施する必要があると講演では強調した。隣県山口県は、6月から県内の河川や海域、地下水の60地点で独自調査を開始している。広島県が動かないため、地元住民団体が講演に前後して採水した結果が後日届いた。本郷処分場の調整池排水はPFOA 58.2 ng/L、PFOS 5.7 ng/L、合計 63.9 ng/L。恐れていたとおり暫定目標値50 ng/Lを超過している。詳細な調査が必要だ。

安定型処分場を廃止させることは容易ではないが、全国の汚染事例を突き付けて環境省交渉を行い、突破口を見出していきたい。



7月12日 ストップ！産廃汚染環境シンポジウム

日鉄呉跡地問題を考える会

会報第7号

連絡先 森芳郎 (080-3053-5357)

西岡由紀夫 (090-9736-8895)

2025 年 8 月

E-MAIL: okanity@yahoo.co.jp (岡西)

「軍都」ではなく「平和産業港湾都市」へ

8月12日「考える会」が声明発表

報道では日鉄呉跡地の防衛省取得費約6億円（土地測量費・不動産鑑定評価費）を26年度概算要求に盛り込むそうです。日鉄跡地問題についてもっと声を上げたいと思い「考える会」会報を編集・修正転載させていただきました。（藤井）

私たち「考える会」は、国（防衛省）及び日本製鉄に対して売買契約の締結をしないよう、また購入費を26年度予算に計上しないよう求めるとともに、地元自治体の呉市に対しては、以下のとおり、市民の命と暮らしを守ることを第一義に、あくまでも「軍都」ではなく「平和産業港湾都市」としての発展を求めます。

「日鉄呉跡地問題を考える会」は、8月12日（火）10時から呉市役所4階記者クラブで、防衛省と日鉄の日鉄呉跡地の売買契約締結に向けた「基本合意」について声明を発表し、この発表を取材した報道関係5社（中国新聞、NHK、広島テレビ、広島ホームテレビ、テレビ新広島）と質疑応答を行いました。発表内容はその日のうちにニュースなどで各社から報じられました。

この「基本合意」は、7月31日の市の報道発表資料において、防衛省からの情報提供として伝達されたものです。

合意内容については明らかにされていませんが、新原呉市長は「この度の合意により、多機能な複合防衛拠点の整備が一層着実に進むものと期待しています」とコメントしました。それに対して私たち「考える会」は、これまで通り「軍都」ではなく「平和産業港湾都市」としての発展を求めています。以下、「考える会」の声明を全文掲載します。



「考える会」記者発表で取材する報道陣。
8月12日、呉市役所記者クラブで

このたびの「基本合意」は、昨年3月の市民には「寝耳に水」であった跡地への新基地構想を、市民に説明し理解を得ることなく拙速かつ強引に実現しようとするもので、「住民抜き合意」と言わざるを得ません。会は、以下のとおり契約の締結をしないよう、また購入費を26年度予算に計上しないよう求めます。

1 4月24日の地元住民を優先して開催した「説明会」は、あくまで1年経って初めて防衛拠点整備計画案なる「絵にかいた餅」を公表・説明したもので、決して市民の賛否を問うたものではありません。このことは、5月26日に市議会に提出した「議事概要」でも、25人の質問者中、20人への防衛省・市の回答が「未定」ないし「調整中」であったことから明らかです。さらに、6月11日、議会での大森部長（説明会の責任者。市長は市内で団体との懇談を優先して欠席）の「反対意見6名だからおおむね賛成意見が多数」との答弁は、根拠を欠く暴論です。会は、改めて全市民を対象とする説明会の早期開催を求めます。日鉄も、これまで市民の理解を得ようとするのは一切なく、企業が果たすべき社会的責任を放棄しており、同様に説明会の開催を求めます。



2 防衛省が跡地の深刻な土壌汚染を未処理のまま購入すれば、国が税金を投入して土壌汚染処理の法的な義務を負うことになります。これまで防衛省、呉市は、「跡地の土壌汚染対策は日本製鉄において実施されるものである」と繰り返し明言してきました。跡地は有害重金属物質の「公害のデパート」であり、加えてズブズブの軟弱地盤ですが、何ら日鉄による調査は行われていません。US スチールの買収で5,000 億円ものローンを抱えている日鉄の「言い値」で、数千億円ものキズ物の跡地を買うことは、決して許されません。

3 防衛省は日鉄呉跡地への「弾薬庫」の整備を明らかにする一方、その面積を必要最小限に抑え、呉湾内にある大麗女島の既存の海上自衛隊弾薬庫を最大限活用することを表明しました。大麗女島から対岸の海上保安大学校までの距離は約 300m で背後には住宅団地が広がっています。弾薬庫の設置には爆発の影響が周辺の住宅などに及ばないよう「保安距離」の確保が義務付けられており、弾薬庫 1 棟で最大の 40 トンを貯蔵すると保安距離は 550m となります。保安距離の絶対的不足により、海上保安大学校の学生や職員、晴海団地などの周辺の住民は日常生活と命が脅かされることになりますから、呉市は防衛省が本年 3 月 15 日に完了した「大麗女島」弾薬庫設置の調査報告書の内容について、両者合同で、早急に市民に説明を尽くさなければなりません。

4 湯崎広島県知事は「県や市と意見交換できる『場』を求めるなど地元経済の発展につなげたい」とのコメントを発表し、企業誘致などの具体化を求めています。2 月に公表された県・市が委託した「跡地の利活用調査報告」を活用する選択肢を県は諦めていません。経済波及効果や想定雇用人数も防衛省が示さないままでは、「防衛拠点」の整備は好ましくないという考えからだと思います。私たち「考える会」は知事のコメントを是とし、あくまでも「平和産業」誘致を求めます。



新基地が整備されたら、呉湾一帯が日米の軍事拠点に



海上保安大学校
おおうめ
大麗女島（中央）と右手奥に見えるのが海上保安大学校、その距離はわずか 300m。

広島県による日本製鉄瀬戸内製鉄所呉地区跡地の利活用の調査結果			
候補	エネルギー産業拠点	デジタル産業拠点	造船産業拠点
概要	産業用蓄電池製造、洋上風力発電の設備製造、航空燃料製造、太陽光パネル製造・再生	半導体関連製造、データセンター、自動運転車両などの開発実証	造船、船舶整備、無人運航船の開発
経済波及効果	6兆3千億円	5兆7千億円	2兆2千億円
想定雇用人数	1800人	1500人	800人

中国新聞 2025/01/29



現在湾内の自衛隊施設に囲まれている米軍・弾薬廠司令部が、中央棧橋の真向かいの現警備隊用地に進出していきます

(2025 年 2 月 8 日中国新聞より)
日本製鉄（日鉄）瀬戸内製鉄所呉地区跡地を巡り、県は 7 日、産業用地として活用するための調査結果を公表した。経済波及効果の試算ではエネルギー産業が 6 兆 3 千億円で最高だった。デジタル産業は 5 兆 7 千億円、造船産業は 2 兆 2 千億円。雇用人数はエネルギー産業が 1800 人で最多。デジタル産業 1500 人、造船産業 800 人と続いた。

5 呉の新基地整備は「防衛力の抜本的強化、抑止力の強化」のためですが、「抑止力の強化」により日本が攻撃を受け、呉が「標的の街」になる危険性が高まるとともに歯止めのない大軍拡路線となります。平和外交でこそ東アジアの緊張状態から脱することができます。アジアの緊張状態を高める呉の新基地構想は有害無益です。
呉は、アジア太平洋戦争末期の 1945 年 14 回（主なもの 6 回）米軍による空襲を受け、市街地は焦土と化し、総計で 3 千人以上の死者を出しています。戦後、呉市は旧軍港市転換法（軍転法）のもと「平和産業港湾都市」の建設を進めてきました。戦争の被害も加害もない平和な呉を願った市民を裏切り、再び「軍都」になることを危惧します。同じ過ちを繰り返さないために、私たちは今後も活動を続けていきます。

軍都広島137年、東京を含む日本全国大空襲、沖縄戦 広島・長崎原爆ジェノサイドから80年 重慶爆撃からガザ・ジェノサイドまで ヒロシマは何をなすべきか

「8・6ヒロシマ平和へのつどい2025」報告

大月純子（8・6ヒロシマ平和へのつどい 2025 実行委員会
広島原爆 80 年朝鮮人犠牲者追悼式準備委員会）

8月5日夕刻、広島市まちづくり市民交流プラザ5階で、「8・6ヒロシマ平和へのつどい2025」（以下「8・6つどい」）が行われた。この集会には、「広島原爆 80 年朝鮮人犠牲者追悼団」も、同 6 階とオンラインでつなぎ、同時通訳を介して参加された。

広島原爆 80 年朝鮮人犠牲者追悼行事

この追悼団は8月3日～7日、韓国から広島を訪問し、8月5日13:00から「広島原爆 80 年朝鮮人犠牲者追悼行事」が行われた。広島県朝鮮人被爆者協議会の金鎮湖（キン・ヂノ）会長から「朝鮮半島出身の原爆被害者問題について」と題して講演があり、14:30から「朝鮮人原爆犠牲者追悼式」が行われた。追悼式では黙祷が捧げられ、献花が行われた。仏教、キリスト教（カトリック、プロテスタント）による宗教追悼儀式が行われた。続いて韓国からと日本からのあいさつと追悼辞が述べられ、歌や舞踊などが行われた。このように、韓国から来られた追悼団によって追悼行事が行われたのは広島においては初めてのことであったが、とても意義深いことだと思う。

8・6ヒロシマ平和へのつどい

「8・6 つどい」において、「在朝被爆者の援護のために」と題して、被爆二世の筆者が話をした。被爆後、さまざまな方法で、朝鮮半島に帰った被爆者たちは、日本を離れたという理由で援護の対象から外され続けて来た。その後、在韓被爆者を含む在外被爆者については、繰り返し裁判を起こした結果、現在は、居住国から被爆者健康管理手帳の申請を行うことができ、各種の手当を受給することが出来るようになった。しかし、朝鮮民主主義人民共和国に帰った被爆者たちは、国交が回復していないため、実質的に被爆者援護法の適用が受けられずにいる。2000年3月には、朝鮮民主主義人民共和国の被爆者団体が来日し、当時の小渕恵三首相を表敬訪問した。そして外務省や厚労省と懇談し、「被爆者医療支援」を要求した。それを受けて、2001年3月には、外務省と厚生労働省が合同で、「在朝鮮調査のための代表団」を派遣し、在朝被爆者の実態調査を行った。そして、「反核平和のための朝鮮被爆者協会」から「人道的な医療支援が急務である」ことが指摘された。しかし、2002年に小泉純一郎首相（当時）が訪朝した際に、朝鮮民主主義人民共和国が拉致を認めたことによって、国交回復の動きがストップしてしまった。「日朝平壤宣言」には、「植民地支配に対する謝罪と賠償」も書かれているが、拉致問題が声高に言われるようになり、「植民地支配に対する謝罪と賠償」も在朝被爆者に対する人道的な医療支援も進まなくなってしまった。

これまで在朝被爆者問題の解決に努力してこられた金子哲夫さんは、「2018年に朝鮮被爆者協会が実施した調査によれば、朝鮮民主主義人民共和国に住む被爆者たちの死亡率は広島などに比べると高い」と指摘されている。そのために、喫緊の課題として、日本政府に対し、2001年の在朝被爆者の調査に立ち回り、平壤で被爆者健康管理手帳を交付するための事務所を設け、被爆者健康管理手当を支給することを日本政府に求めていく。そして、2002年に「反核平和のための朝鮮被爆者協会」が求めた人道的な大規模な医療支援を一日も早く実現しなければならない。そのためには、朝鮮民主主義人民共和国に対する経済制裁を解除するように国連に求めていく必要がある。そして、一日も早い国交回復を日本政府に求めていく。そのためには、私たちの周りにある朝鮮民主主義人民共和国への偏見や差別をなくしていかなければならない。それらのことを実現するために、共にできることをしていきたいという決意を述べた。

一発言は以下の通りー

- ・天皇の招爆責任（次ページに掲載） 西岡由紀夫さん
- ・核エネルギー利用の本質的困難性
ー質量欠損の利用を続けてはならない
湯浅一郎さん（ピースデポ前代表）
- ・ジェノサイドを周縁化するイスラエル・パワーを食い止める
田浪亜央江さん（広島市立大学教員、中東地域研究）
- ・チョ・ウォノさんから連帯メッセージ
（「広島原爆 80 年朝鮮人犠牲者追悼団」「統一の道」共同代表）
- ・沖縄からのメッセージ
具志堅隆松さん（ノーモア沖縄戦命どう宝の会共同代表、
沖縄戦遺骨収集ボランティアガマフヤー代表）
- ・福島からのメッセージ 武藤類子さん（福島原発告訴団団長）

8月6日「人間の鎖」・ダイインなどの行動

原爆ドーム周辺は市民が自由に利用し、様々な表現をする場であった。これまで1981年から原爆ドーム前で「追悼のダイイン」や「グラウンド・ゼロのつどい」を行ってきた。

広島市は、今年も去年に引き続き早朝から平和記念公園の入場規制を強いた。そのため、私たち市民の「表現の自由」が圧殺されてしまった。それに対する抗議も込めて、原爆ドーム北側のひろしまゲートパーク内の「ピースプロムナード」において、7時から、「被爆 80 年 広島大本営と原爆ドームをつなぐ人間の鎖行動」を行った。137年前に軍都広島としてアジア侵略の拠点の役割を担った広島大本営跡と原爆ドームを「人間の鎖」でつなぎ、軍都広島の侵略・爆撃・植民地支配・加害の歴史を忘れず、アメリカの広島・長崎

の原爆ジェノサイド、全国空爆犯罪を追及し、イスラエルで現在行われているガザでのジェノサイドに抗議し、パレスチナの占領を止めることなどを訴えた。7 時半から「グラウンド・ゼロのつどい」を行い、全国各地、また韓国の参加者から各地での活動の報告と問題提起を受けた。8 時 15 分から「追悼のダイイン」を行った。そして、反戦・反原発・反ジェノサイド - デモを中国電力本社前まで行い、本社前

で「脱原発座り込み行動」を行った。島根や関西、伊方、上関などで反原発の取り組みをしている方々から問題提起を受けた。韓国の参加者からも連帯メッセージが語られ、島根・福島からのメッセージが読み上げられた。湯浅一郎さんが最後の挨拶をし、「島根原発は廃炉！」「上関原発計画白紙撤回！」「上関の中間貯蔵施設撤回！」「原発やめよう！」などを訴え、終了した。



天皇の招爆責任

西岡由紀夫さん（被爆二世・ピースリンク広島・呉・岩国の呉世話人）

天皇主権の大日本帝国憲法では、天皇大権として立法・議会開閉・官制・任官・軍事・外交・戒厳令宣告・恩赦・栄転授与・祭祀等があり、国家は天皇の行政、天皇の司法として運営され、天皇の軍隊によって支えられた。

日本陸海軍は、広島を拠点に、日清戦争（1894-95）、台湾の植民地化以後、北清事変（1900-01）、日露戦争（1904-05）、韓国併合（1910）、第一次世界大戦（青島出兵）、シベリア出兵（1918-22）、柳条湖事件（1931.9.18）、盧溝橋事件（1937.7.7）以後、南京大虐殺（1937.12.13）、日中全面戦争、マレー半島・真珠湾攻撃（1941.12.8）によるアジア太平洋戦争へ 1945 年 8 月（日本の降伏文書調印 9.2、沖縄 9.7）まで、約半世紀は、戦争に次ぐ戦争であった。

1945 年 2 月、裕仁は元首相など 7 名に戦争について意見を求めた。ほとんど全員が戦争継続を主張。2 月 14 日、近衛文麿は木戸とともに御文庫で「上奏文」を提出した。

戦争終結について

（裕仁）「もう一度、戦果を挙げてからでないと中々話は難しい」（近衛）「そういう時期が御座いましょうか、之も近き将来ならざるべからず。1 年先では役に立つまいと思います」（裕仁）「この戦いは頑張れば勝てると信ずるが、それまで国民がこれに堪えうるや否や、それが心配である」

2月15日 最高戦争指導会議で、情報機関の担当者はソ連が日ソ中立条約を破棄し参戦すると警告。
2月16日 重光外相が、26 日には東条元首相が参内して警告など述べたが、天皇は変わらなかった。
3月10日 ついに東京は「大空襲」を受け、B29 が 334 機、首都の 4 割消失、10 万人の焼死者。
3月18日 「天皇視察」、「焼け跡を掘り返す罹災者のうつろな顔、恨めしそうな顔、お辞儀もせず御車を見送る」「虚脱」した民衆の表情。
3月26日 米軍、最初に「慶良間列島」に上陸。
4月1日 米軍、沖縄島の読谷の海岸線に上陸。

近衛文麿が天皇に終戦を提言した 45 年 2 月の時点で（中略）終戦を決断していれば沖縄戦を避けられた可能性があった。そうすれば当然、原爆投下やソ連参戦も避けることができた。天皇が 8 月に終戦の「聖断」を下したのは国体護持＝天皇制維持にこだわった、あまりにも「遅すぎた聖断」であった。（林博史『沖縄戦 なぜ 20 万人が犠牲になったのか』集英社新書、303 頁）

米軍は日本本土に 16 万 800 トンにのぼる爆弾・焼夷弾を投下したが、そのうちの 90 パーセント以上が太平洋戦争の最後の 5 カ月間に B-29 によって投下された。（中略）その推定死傷者は 102 万人、その半数以上の 56 万人が死亡者と言われている。（中略）。死傷者の 7 割近くが女性と子どもたちであるとも言われている。太平洋戦争における軍人・軍属・民間人すべてを含む日本人戦没者の総数は 310 万人と推定されている。これら戦没者の実に 18 パーセントが無差別爆撃による犠牲者であった。（田中利幸『空の戦争史』講談社現代新書、237 ～ 8 頁）

「招爆責任」を提起した岩松繁俊『戦争責任と核廃絶』

（三一書房、1998 年）から引用する。

- ・アメリカ人の復讐心を起こさせ、原爆投下を招いた日本側の戦争犯罪は厳然と存在するのである。われわれはそれを『日本の招爆責任』とよぶことができる（178 頁）。
- ・日本国の侵略犯罪・戦争犯罪の基本要因を省察していくと、究極的には天皇制軍国主義にいたる。天皇の軍隊は「忠節を尽くす」のを本分とした。しかも「上官の命は朕の命」と心得なければならなかったので、軍部指導層の命令は絶対命令として、良心の呵責なく、国際法侵犯の行為をつづけることができた。さらに「生きて虜囚の辱めを受けず」の日本軍は、国際法を学ばず、敵国軍人の捕虜を侮蔑の対象にして人権を無視した。（中略）こうして沖縄の民衆は悲惨きわまりない犠牲を強いられ、さらに二個の原爆によって、朝鮮人・中国人・戦争捕虜をふくむ二都市の市民が無差別に虐殺された（179 頁）。
- ・日本が被爆した理由は、日本の加害責任にある。日本の加害の根源的理由は日本人の天皇制優越思想と他民族への蔑視・支配の思想である。日本人はみずからの加害責任を反省し謝罪しなければ、アメリカの原爆投下責任を追及できない（224 頁）。

さらに、田中利幸さん（歴史家）の指摘について、天皇の招爆責任を議論するとき、日本側の「招爆責任」と米国側の「招爆画策責任」を同時に追求する必要がある。（田中利幸『検証「戦後民主主義」』特に第二章「招爆責任」と「招爆画策責任」の隠蔽－日米両国による原爆神話化を参照）

憲法を活かそう！ ストップ！改憲 「8.6 新聞意見広告 2025」を掲載しました！

33 回目の 8.6 新聞意見広告を朝日新聞朝刊全国、中国新聞に掲載することが出来ました。賛同者は掲載以後も増えて、4400 を超える賛同をいただきました。(8.25 現在) 政治的、思想的立場にこだわらず幅広い人々とつながり、命を守り、人権を確立する様々な課題を共有することができました。皆さまのご支援、ご協力に世話人一同、感謝申し上げます。(藤井純子)

〇〇〇がわたしの安全保障

皆さんから寄せられた安全保障は「カラー版紙面」をご覧ください。安全保障とは人々が人間らしく生きるために話し合い、相手を思いやるその生き方、社会の在り方。国であれば、核や軍備ではなく外交力だと。また賛同者からのメッセージや購読者からの感想もこの会報で共有したいと思い掲載しました。(p15～22)そして、意見広告をご覧ください多くの人と繋がろう場に出来れば、と心より願っています。

8.6 意見広告編集作業を終えて …… 島村眞知子

ふと思いました。小学校低学年の頃、父と買い物のため広島市内の本通り商店街を歩いていると白い帽子、白い服を着た人が通りに座りハーモニカを吹いておられました(後で父から傷痍軍人だと教えられました)。なぜか哀しくなり泣きながら父に缶にお金をいれて欲しいと頼んだそうです。11 歳の孫を見ているとパレスチナやウクライナで傷つき亡くなる子どもたち、アフリカの内戦や飢餓で亡くなる幼な子を思い戦争を起こす憎しみの連鎖を止められない私たちの行動に虚しさを感じます。がしかし、なんとか思いを共にする人たちと共に、少しでも希望がもたらされるように活動しなければと思っています。

会計から …… 西浦紘子

会計を預かっている者として一喜一憂の日々でした。猛暑にもかかわらず郵便局に出向いて賛同金・カンパを寄せてくださる皆様には喜び、感謝を感じました。本当にありがとうございます。それに対して諸物価の高騰はなかなかの痛手でした。例えば、ゆうちょ銀行の振替受払通知表送付の手数料です。送金される皆様が手数料を支払われることを申し訳ないと思うと同時に受け取る私たちにも毎月 500 円と 1 日分の通知ごとに(枚数にかかわらず)165 円が課せられるのです。「ゆうちょダイレクトを利用するという方法があるよ」と助言いただき事務局で検討を重ねましたが、意見広告にお名前を確実に掲載するための諸々の作業には、ご教示いただいた方法はどうしても向いていませんでした。皆さまからお送りいただいた貴重な賛同金・カンパ、少しでも無駄のないように工夫していくことをこれからも心がけていきたいと思っています。本当にありがとうございました。

「広島」を真ん中に置いて考えること 大道美代子

2025 年の意見広告も、多くの皆さんの賛同のおかげで掲載されました。ありがとうございました。益々混乱する国内外の状況の中、不安は広がり、何が真実なのか嘘なのか分からなくなる日々の暮らしです。迷いが生じるときも多々ありますが、私も、親を亡くす年齢になってみると、自分の体の真ん中にあるものは「広島」であると思うことが増えてきました。「広島」を真ん中に置いて考えてみると、戦争の加害も、世界各地の被ばく問題も原発のことも、これから同じ被害を生み出さないようにと道筋が通った気がします。もう亡くなって 20 年もたつ被爆者の祖母は、生前原爆のことは話していませんでしたが、戦時中のことを思い出してはよく怒っていました。当時は、「昔のことを思い出して怒っている」という気持ちで聞いていましたが、戦後の広島を思うと怒りも収まらなかったろうと想像します。「まあだ、核兵器も争いごととも無くなつたらんのか」、「もっと私らのこと、世界中に知らせるかあ」と、今も腹を立てていると思います。

◆お名前の掲載… 今年も毎年手伝ってくださる方々と名簿の字や読み、掲載可・不可などを個票と入金リスト、会報送付用の名簿と照らし合わせて確認しました。紙面も何度も何度も校正して確かめました。それでも不備があるかもしれませんが、お許しくださいますようお願い致します。

▼締切以後の賛同団体・個人(敬称略)
小山景子 島田民男 山下昭子・山下洋一 上ノ坊輝也 藤井博文 石原潔 藤井寛治 寺島尚 津留幸江 河原正美阿比留信一 野本祐一 百沢将 田中正人 高橋修 木戸衛一・さやか・理人・杏奈・志遠 林淳 大崎武 竹田良子 鷲尾健之 保土田政子 三角忠 小林千恵美 小林文昭 横山郁恵 イシズユウイチ 中村あけみ 玉木陽子 塩田正幸 甲斐高之・甲斐由紀子 山野辺恵美子 松尾保代 広瀬純也 斎藤邦子 長谷川薫 西岡佐喜子 樋口耕治・樋口厚子 小路倫子 竹本千代 吉田絵理子 松本成 川野安紀子 水野美代子 阿部千春 堤良子 近松里子 奥山きよみ 栗栖吉三郎 三浦一雄 吉岡イツコ 川上賢一 勝幾代 板橋俊子 まきちゃん&ますけ 石川康子 板橋俊子 近藤克郎・近藤早苗 村田悟 工藤幹雄 田中直伸 有福美香 安田尚平 高山玲子 大池睦子 田中重昭 毛利亮子 広島合同労組生協ひろしまパート支部 与那国島の明るい未来を願うイソバの会 名前掲載不可 3 人

収入	支出	会計中間報告	(2025 年 8 月 17 日	会計：西浦紘子)
賛同金+カンパ	9,990,797 円	広告料、紙面製作、発送料、カラー版印刷、ハガキ代ほか	合計	10,806,597 円

▼不足額 815,800 円は本会計(会費)から補填します。



意見広告紙面を作り終えて

石岡真由海（グラフィックデザイナー）

もっと早く紙面作りの準備をしておけば…と、毎年同じ感じが頭をもたげる。前年、意見広告制作が終わってからずっとグズグズしながら自分の中に「たね」を溜め込み、その年の紙面案提出日直前を迎える頃にいつもそう思う。

当事者、市民グループ、記者や作家たちが多大な労力をかけて歴史を掘り起こし、鍵のかかった扉をこじあげ、公開された多くの書籍や映像、大小様々な企画、調査報道、芸術作品などに触れて、それらを「たね」として自分の内側に下ろしてゆく。

そんなある日、友人から勧められて「黒い雨訴訟」を借りて読んだ。証言までに長い時間を必要とし、訴訟にも長い時間を強いられ、これから続く第二次訴訟や長崎の黒い雨被爆被害、東電福島第一原発事故被災者のひばく被害が抱える「時間との闘い」を戦後 80 年で区切るものかと強く思った。まずは事実関係に齟齬がないしっかりとした本文を構築したいと、著者の小山美砂さんに監修をお願いした。面識もない私のメールの依頼を小山さんは快く引き受けてくださり、一言一句丁寧に校正してくださった。

また別のある日、イスラエルによるパレスチナ虐殺を止めるために原爆ドーム前で行われているビジュル（祈りの場）に参加した。そこでカメラを構えた中奥岳生さんと初めて出会い、その写真に圧倒された。中でも薔薇色の空を背景に佇むシルエットのドームには、ピカドン直後の「自分はどうなってしまったのかわからない突然の死者たち」の嘆きの重みと密度を感じた。この写真を使わせてほしい…。平和活動への写真使用は許可も不要という寛大な中奥さんは、初対面の私の依頼を快諾してくださった。

—お二人の力のおかげで今年の紙面がある。

カラー印刷英文面の翻訳は今年も澤田美和子さん、スティーブ・リーパーさんが担当してくださった。今年のテーマ「〇〇〇が私の安全保障」では多くの言葉が集まり、本文の広島弁など入稿直前まで粘り強く丁寧に翻訳していただき、内容・分量ともに多大な労苦を注いでいただいた。

—世界に向けて英語版をぜひご活用いただきたい。

「たね」に通底するのは怒りだ。人権や自然に対する不条理に対する怒り、不条理に迎合する民衆の熱狂に対する怒り。この怒りを、戦争を二度と繰り返さないための学びに変えて、次に伝えることが肝心のはずが、この夏は、信じたいものだけを見てあらゆる不満を外部的になすりつける主張が参議院選挙を盛り上げ、歴史改ざんを肯定して憚らない代議士の当選に教育の敗北を見た。この現象の原因に思い当たる節がある。

私が学生だった頃、3学期末の近代の歴史になると教師は決まって「時間がないからあとは教科書を読んどけ」と歴史の授業を終えた。15 年戦争を太平洋戦争と言って憚らないのも、「尊い犠牲の上に今の私たちの命がある」という慣用句が幅を利かせているのも、こんな教育の敗北の表れだと痛感する。でもいつからでも学び直しはできる。

意見広告が掲載された今年 8 月 6 日、私はある小学校の登校日の平和教育で 1～3 年生に絵本の読み語りをした。戦争の不条理と当時の空気を伝えるため、子どもたちにたくさんの本を書いてきたかこさしの自伝絵本「秋」を、加害の歴史を伝えるため韓国の童話作家クウォン・ジョンセンが幼少期に経験した大日本帝国軍の侵略を描いた「とうきび」を、原爆で最愛の弟を亡くした四國五郎の詩に絵本作家長谷川義史が絵を描いた「ひろしまの子」の三冊を選んだ。

絵本をじっと見つめる子、そわそわする子、聞き耳を立てる子、あくびをする子、隣の子にちょっかいを出す子、ああ、子どもたちのこの姿こそ、平和の時間を生きる証。読み終えて、私は大人なのに未だ世界の戦争を止めることができずごめんなさいと詫びた。そして、大人としてできる限りのことをするから子どもたち皆さんの力を貸してくださいと頼んだ。

全国の大人たちに呼びかけてこの意見広告は今年も掲載された。大人の努力の一粒のたねを、新聞という公共の土台に蒔くことができ、改めて賛同してくださった皆さんに感謝申し上げたい。





新聞意見広告へ購読者からのメッセージ

今年の 8.6 新聞意見広告も昨年に続き、購読されている 9 割近い方々に見て頂いた。広島への原爆投下はもちろん、日本の大軍拡、憲法 9 条、世界の戦争についても多くの感想が寄せられた。「毎年この意見広告を見て意義を感じる」「夏だけでなく常に考えるべきこと」「続けてほしい」… 戦争する国への危機感が強まっているのだ。改めて皆さんに感謝！！

まわりの方々から

- ・今年もやりましたね。朝日新聞を開いたら、ピカドン ザー！ とてカラフルで。毎年斬新ですね。仕事の後かたづけもなかなか苦勞なことと思います。皆さまにもよろしく。
- ・原爆ドームから一条の光が差し、希望が見えてすばらしいですね。文章の文字が読みづらかったのがちょっと残念…
- ・お疲れさま。毎年の広告、その年々にいいデザインで、協力者の名前を載せて、大事な一面です。テレビで当時の音の再現 ピカドンをやっていました。今年もありがとうございました。
- ・6 日に朝日新聞を買い求めました。暗くて文字が読みにくい、と言う方もありましたが、落ち着きがあってもっと素敵だと思いました。
- ・意見広告を見て息子の連れ合いのお母さんから電話がかかって来ました。「長崎や沖縄で生活したこともあり考えさせられた」と話されました。おかげで少しお付き合いが深まりました。
- ・8 月 6 日の日の朝日新聞の記事は隈無く夫婦で読みました。非核や核による抑止力の考え方など現代を生きる者として考えねばならぬ事を再認識しました。共通するのは、各自が今自分の立ち位置で何が出来るかを大きい小さいに拘らず取り組み行動することが一歩であると思いました。小さな蟻の穴が大きな山を良い意味で切り崩すこともあります。何かやって行こうとの思いを感じた次第です。
- ・素晴らしい構図でした。メッセージはこの時代にアピールすべきことばかりで心に残り、感服しました！ 有難うございました。

29 歳以下

- ・とても印象に残る広告で、改めて平和というものについて考えさせられた。
- ・日本の憲法 9 条を改めて思い直しました
- ・激変する世の中、今後どうすべきかを益々問われますね。
- ・苦しんだ人たちの生の声が書かれていて、原爆被害の恐ろしさが非常に際立ち、気持ちが伝わってきた。自分たちの世代で戦争が起こって欲しくない、起こしてはならないと改めて感じさせる大切な記事だと思った。
- ・8 月 6 日は広島に原子爆弾が落とされた日、原爆ドームのシルエットを見て瞬時に広告の内容が把握できた。憲法第九条の改正については様々な論争が行われてきたが、世界の平和のためにこの国がどうあるべきかを考えさせられる。
- ・ピカドンという言葉で原子爆弾を想像できるだろうか。戦後 80 年、戦争の悲惨さを知る人が少なくなっていることへの危機感を覚える。
- ・核の使用が現実にある状況下、核抑止をもっと叫ばないと、と思う
- ・原爆の悲惨さが伝わってきた。
- ・世界情勢が、ますます危うさを増すなかにあって、唯一の（戦争）被爆国として、日本は果たすべき役割を果たしていないように感じる。草の根活動の重要性をヒシヒシと感じ、引き続き応援していきたいと、強く思う。

- ・戦争を体験していないわたしたちにとって原爆ドームと聞いただけで少し恐怖心がある。怖いし避けたいが今の日本があるのは戦争があったからだし、この当たり前の日常に感謝して生きたい
- ・読みにくいところはあるがインパクトのある広告だ。この写真のイメージやカラーが危機感を醸し出している。興味のある人がホームページに飛びたい時、QR コードがあるといい。
- ・4312 人の個人、団体それぞれ広島への思いが込められていて素晴らしい。これからも賛同して行って欲しいと感じた。
- ・戦争を経験した世代が少なくなって、今回の選挙でも軽々しく「核兵器の保有が安上がりだ」と発言するような候補者まで出たことを考えると、戦争への戒めは必要だと思う。
- ・第九条の会についてもっと知りたいと思った。また 9 条についても調べたいと思った

30 歳代

- ・文字の読みにくさは受容できる。文字で原爆を表現するのかと感心した
- ・核兵器の脅威について訴え続けることは必要なことだと思う
- ・沢山の人の願いと思いが込められたと分かる。賛同します。

40 歳代

- ・原爆の日に、核の脅威が迫っているタイミングであり、時勢をとらえた広告だと思いました。
- ・80 年を機会に未体験者である我々が、これからの日本をどうしていくべきか、一人ひとりが考えないといけないと再認識させられた。
- ・憲法が、というよりも、もっと世界的に生きるためにどうしていくべきかをイチから考えていくほうがいいと、個人的に考えている。
- ・戦争を繰り返さないためにも日本には憲法 9 条があり、守っていかなければならない。
- ・原爆の黒い雨に遭って、その後に被爆者と認められるまでに 30 年以上の時間がかかったというのは衝撃的な事実で、それを知ることのできた広告です。このような体験談はとても心を打たれるものがあります。
- ・改めて日本国憲法第 9 条の大切さを感じた。被爆した人たちが少なくなってきたが後に語り継がれないといけない。
- ・平和であることが当たり前でなくなりつつある中で、平和への想いを再認識できるいい機会になると思います。
- ・第 9 条の会ヒロシマの内容を、今回の広告の記事を読み初めて知りました。色々に関心をもちました。
- ・この広告を読んで、原爆の日だけではなく、もっと日常的に戦争や原爆撲滅について考えたいと思うきっかけになりました。
- ・小学生の修学旅行で原爆ドームを見ました。今私の子どもは学校で平和の学習も無くなりました。修学旅行先も広島ではなく原爆ドームも平和公園も知りません。歴史で 8 月 6 日原爆投下と習っても、恐ろしさは習わずピカドンを知りません。第九条の会ヒロシマには本当に頑張って欲しいし、また繰り返すかもしれないので私も伝えていこうと思います。

50 歳代

- ・草の根で意見広告を出され、カンパされた皆さんに感謝します。永久平和のため 9 条の会が日本中に広まりますように。
- ・世界の指導者が心して聴くべき声



- ・戦後及び原爆投下から 80 年、体験者が年々お亡くなりになっていく中、平和の大切さをどうやって伝えて行くのか考えなければならないと思います。
- ・戦後 80 年 どんなに努力しても『時の流れ』には逆らえず 風化していく戦争の事実を 残そうとする活動に賛同します
- ・今の政治家、一部を除くすべての政治家がこの広告の意味を知ってるのか疑問。参政党は論外なのは言うまでもない。
- ・戦争反対、核兵器廃絶など、戦争をして、核兵器を投下された国として、このような活動は続けていって欲しいと思います。
- ・戦争があるより無い方がいいに決まっているが、戦争を否定すると左寄りと思われる。保守系の平和団体や政党も含めた、超党派的な広告が出せれば良いと思う。
- ・4312 人が善意でお金を出し合い、この広告を掲載したことは凄いことだと思います。画像も少し重く、8 月 6 日を感じる。
- ・原爆投下はアメリカも過ちだとは言ってるようですが、アメリカがキーを握っているので簡単に変えられない。
- ・よく見ると細かい字で一人ひとりの名前が書いてあり、ああ、本当にこんなにも多くの人が賛同しているとわかった。
- ・日本が体験した原爆による惨劇、自国が受けた悲しい歴史は自分たちで受け継ぎ、無かったことにしてはならない。またこの国であつてもこんな悲劇を二度と味わってはいけない。改めて深く思った。
- ・8 月 6 日に改めて日本国憲法の第九条を大切に、と思うことを知らせてくれるよい機会になりました。
- ・今年の 8 時 15 分は仕事で、黙祷をすることが出来ませんでした。戦争をしないこと、平和を当たり前だと思わずに自分達で守って行かなければいけないことを考えさせられる広告だと思いました。
- ・暗く気持ちも落ち込んだ。信念を持って活動を続けている団体だからこそ、明るい希望を持てるような広告も希望する。
- ・世界がまた戦争の時代に入っていくのではないかと心配です。あちこちで攻撃しあい不安で、子どもたちの未来が心配です。
- ・写真とその色合いが、印象的でとても胸に刺さるものがある。名前が記載されているのも思いが込められているのを感じる。
- ・憲法 9 条を変えてはいけない。変えようとしてる人たちは、自分の子どもや孫世代が戦争に行くこととして考えてほしい
- ・80 年が経ち語り継ぐことの大切さを痛感する。若い子たちは見てくれるだろうか。
- ・毎年の意見広告で、継続は力なりと思います。
- ・人の命を奪ってまで何をしようとするのか？お互い尊重しあい、もう 2 度と起こらないよう平和な世界が続く事を願います。
- ・被曝していて苦しんでおられるにもかかわらず、国に認められない。深い憤りを感じます。
- ・憲法九条に関しての意見広告だとわかった。とても読みづらいが、構わず読みたいと思った。
- ・戦後 80 年広島、長崎への原爆投下されたこと福島第一原発事故をもっと深く心で受け止めて、被害者の方々と向き合い学ばなければ行けないと思った。

60 歳以上

- ・原爆ドームが浮かび、『ピカ ドン ザー』、ビッシリと大勢の名前。とてもインパクトがあります。戦争を知らない若い政治家が浅慮で勇ましい右傾化に進む今日、繰り返されないよう語り継ぎたい。
- ・改憲を謳われている昨今で、意味ある広告だ。
- ・ヒロシマのこと、憲法のことを改めて認識する広告で、広島に行ってみようと家でも話している。
- ・終戦 80 年を機に改めて戦争・原爆の恐ろしさを感じ、日本が戦争放棄をしていることに誇りを持ちました。

- ・個人及び団体の賛同者（社）を更に増やす為の活動を強化する必要があると思います
- ・非常に大事な内容だ。戦争を知らない世代が増えた今、あらためて平和を考えるべきです。世界で自分だけが良ければいいと言う風潮は残念。
- ・今上天皇は平和祈念式典になぜ参加しないのか。大日本帝国憲法で開戦も終了も天皇の専決事項と記載が有る。
- ・一年に一度、風物詩のように広島原爆被害を思い出すのではなく、常に核と向き合うべきだ。
- ・原子爆弾の悲惨さに見向きもせず、ウクライナやガザへの侵攻など人類は愚かな営みを繰り返しています。常に平和を訴える活動を止めてはなりませんし、私達も支援していく気持ちを持ち続けていきたいと思っています。
- ・名前は賛同者でしょうか。戦時中の千人針に通底する怖さを感じます。
- ・「核武装」を標榜するような政治家には、今一度、憲法 9 条の重要性を認識して欲しい。
- ・戦後 80 年にわたって私たちの平和を守り続けてくれた「日本国憲法第九条」。弁舌につられ不戦も基本的人権もない創憲構想案を掲げる新興政党が過剰な支持を得て非常に危険です。憲法九条は努力して守り、すべての被爆者は救済されるべき。
- ・日本国憲法第九条は絶対守らなければいけない。原爆の恐ろしさを体験した日本は世界に大きな声で発言しなければ！
- ・若い人たちにも戦争の惨さ悲惨さ恐ろしさを意識してもらうための良い広告だと思います。
- ・一人の力は小さくても大勢の人の力と声をあげ続けることの重要性を強く感じる
- ・今一度立ち止まって歴史の過ちを二度と繰り返さないように広告を使って訴えてほしい。特に若者に想いを伝えたい。
- ・広告を見て涙がこみあげてきた。これだけの惨禍を経ても核廃絶ができず侵略戦争が引き起こされる現状がある。
- ・思いを同じにする人たち小さな名前に重みを感じています。真摯に向き合い、微力でもできることをしようと思いました。
- ・過去の戦争は学校でも学んで来たが、今も世界中で戦争が起きている。日本にとって関係ない事ではなく、常に戦争や平和について考え自分の考えを持たなくてはならない。広島・長崎を振り返り、憲法についても考えるいい機会となった。
- ・暗めの色合いで返って目を引きました。多くの賛同者の名前が載っていますが、自分の名前を探すのに苦労するだろうな。
- ・心がザワザワしました。世界情勢があやしく平和を守るために自分も何ができるのか・・・考えさせられる広告です。
- ・今日は戦後 80 年の「原爆の日」。朝から記念式典をテレビで見、黙祷もした。世界では今、あちらこちらで戦争が起きている、今一度唯一の被爆国である日本が平和と核兵器の廃絶を訴える意義は大きい。
- ・今の世の中の動きの中で、無名で普通の私たちが声を挙げ続けていくことが大事なんだと思います。
- ・非常に有意義で国が海外で出すべき広告です。我が国の立場を明確にしない政府を恥じます。賛同人に感謝。
- ・「第九条の会ヒロシマ」も初めて知った。今年は昭和 100 年、戦後 80 年という節目、戦争を知らない世代にも知ってほしい。
- ・確かさと重みの感じる広告です。文字は読みにくいのですが、読まなくても内容が伝わってきて、訴求力があります。
- ・「第 9 条の会ヒロシマ」絶え間ない活動で認知度も広がったかと思っています。辛い生涯の思いの言葉を始め、「この世界が健やかな・・・」と平和を祈る言葉に多くの人が感銘を受けただろう。今と未来に必要な広告です。



会員さん 8.6 新聞意見広告 25 に賛同してくださった皆さんからのメッセージ

5 月 16 日以降 -----

吉田耕太郎 NO WAR YES PEACE
田坂量慈・田坂千晶 日本国憲法は最高の安全保障
小林晶子 卒原子力
赤羽佳世子 9 条の輸出と災害救助隊の輸出
主演学・主演千咲 対話
石黒由佳・石黒笑花 子どもたちと野菜作りが私の安全保障
森本レイ子 " わかちあう" これしかない
山脇哲子 他の個人の尊重と協調
内藤和雄 平和が私の安全保障
吉村公一 第九条
福永信幸 相互信頼
松本公子 非軍事
岩本恵子 継続は力なり
富山素美 話し合い
秋山良一・秋山映子 軍隊をなくすことが私の安全保障
西貞則 ガザを救え！沖縄の戦場化をやめさせよう！
藤井敏勝 多様性の尊重、対話と相互理解が私の安全保障
村田咲美 平和憲法九条
松井さとみ&家族 9 条を守る！
日笠修宏 軍拡は滅亡への道
久世裕子 高次元との第九条アクセス
大村忠嗣 平和は 9 条の他国への「安心供与」で守ります
須藤初枝 small action が私の安全保障
今野博信 市民の交流が私の安全保障
蔵並弘子 憲法 9 条を永遠に
向井好美・向井健人 9 条

6 月 -----

石黒弘基 戦争のない平和あってこそ命・自由・人権・生活保障
藤田和夫・藤田春美 憲法 9 条が私の安全保障
中平洋子 冷静な対話による相互理解が私の安全保障
田中克樹 対話
井上高志 核兵器は最大の殺人兵器
和木祐一 さべつ・格差のない社会が私の安全保障
塩飽忠一 即時停戦を！大阪空襲体験者より
輪湖昇 食糧自給
山下哲弘 「第九条の会」が私の安全保障
野村光子 即軍縮が私の安全保障
堀内英昭 仲間
石黒康二 非戦と対話
福西清三・福西由紀子 日の丸君が代に些細な抵抗すること
柴田厚夫・柴田早智子 農・林・水産業を守ってこそが私の安全保障
島崎ゆきこ 「誠実な平和外交」これが一番
藤井孟 武器を捨てる
床嶋建丸 二度と戦争は起こさない
藤川雅司 非暴力で平和を
田中暉彦 平和を！平和を！望んでやみません
三多摩演劇をみる会 人を大切にすること
高木美栄子 ひとりひとりの力が平和をつくる
今川治 戦争イヤヤネン！
宇治谷明美 憲法 9 条が 私の安全保障
藤田欣弥 憲法こそ私の安全保障
柴田愛子 憲法九条が私の安全保障
渡口差知子 平凡な日常
山寺亮・山寺恵光子 天皇制反対 9 条を 1 条に
西村善次 平和こそが私の安全保障
柳沼吉孝 平和への情熱が私の安全保障
加藤友明 声を出し続けることが私の安全保障
黒田恵 憲法 9 条
平川達夫 食料の自国での生産を永久に続ける
鶴飼礼子・鶴飼真一郎 対話による友好が私の安全保障
佐々木あけみ 非武装中立
関根ふさえ ノーベル平和賞に九条の会ヒロシマ
小野邦英 日常生活に現憲法を生かす
酒井修二 戦争はやめようね
府川政人 日米安保廃棄と日米地位協定廃棄！
原通範 私たちみんなが平和的生存権をもつ

中野博之 お互いを愛し合うこと
渡辺隆一 憲法九条が私の安全保障
関静子 憲法 9 条を守ろう
大石恵子 へいわが私の安全保障
板橋一彦・淑子 原発廃止
白井操 人を信じる心が私の安全保障
田中肇 互いを知る
山下とも子 食糧自給率 100%と憲法 9 条と脱原発
石本幸裕 相互理解
佐々木至成 折角頂きたいのちをお互いに大事にすること
安達純子・安達安人 平和が一番
森山薫・森山葵 武器ゼロが私の安全保障
大森薫 まず隣人を愛すること
こいけけいこ 戦争の放棄
垣見トシコ 憲法 9 条が私の安全保障
平木久恵 日本国憲法第九条
谷口初男 全ての人への人間としての尊厳が守られること・核兵器
青木克明 核なき世界
原田優子 九条が私の安全保障
阿波明子 あるく
山下紀子 戦争反対
真鍋裕子 多様な人たちと手をつなぎ平和な今を大切に
羽室浩子 反戦平和、9 条死守、原発いらない
松井久治・松井昌重 話し合い
土井勝典・土井久美子 憲法 9 条
加味忠司 昭和 19 年生、あくまで「アバンゲールとして発言・行動する。宝物「平和憲法」である。
加害への償い
井戸謙一 核のない世界、国際交流そして音楽
浅賀恭子 笑顔で話し合う
堀込康美・堀込啓一 笑顔で話し合う
大崎かおる 汚染なき水・空気・食べ物と無垢な笑顔
橋本あき・橋本希和 おいしい水
西矢恵子・三上弘志 戦後、非戦の原点こそが私の安全保障
北村由紀子・北村達夫 外交こそ私の安全保障" 安心供与を"
溝淵由理 原発廃炉が私の安全保障
中津勉 自・公・「ゆ」党に日本の未来は託せない
富矢伸史 憲法九条「平和憲法」をみんなで守り抜きましょう
高嶋伸欣・高嶋道 武器ではない平和の砦こそ
三原憲法朗読会 子どもの笑顔いつも
伊藤元久 日本国憲法
長谷川春子 非武装
山崎猛 憲法 9 条への愛が私の安全保障に直結する
永原富明 被爆体験伝承者として平和を願う
鎌田清 九条を守る！
山本咲美 非戦の誓いが私の安全保障
谷川真 日米安保条約の破棄が私の安全保障
黒金恵子 憲法が尊重され主権在民、国民のための政治実現
中尾治子 政治の外交と市井の交流
桜井邦彦 憲法実現
明日村希 命が一番
浅賀きみ江 「みんなで手をつなぐ」が私の安全保障
大町宏志 通勤サイクリング往路での末社レベルの神社参拝
大蔵蔵律子 声掛け
上野勝 軍備を全廃して世界の人々と仲良くする
菊地純子 農業を守るのが私の安全保障
原田高広 憲法 9 条死守
根本雄三・照子 生きること
吉村由紀子 会話と笑顔が私の安全保障
土井登美江 憲法の理念、今こそ日本と世界の安全保障
本間正明 熟慮が私の安全保障
中村寛志 平和への祈り・武器を作らず、持たず、持ちこませず
富田昭生 自衛隊の国連軍化が私の安全保障
小木曾緑 寝食の保障と自由の権利かな
鈴木捷彰 「治安維持法」施行 100 年の歴史を学ぶこと！
新井保二 あらゆる生命を人の手で殺さないと希望する
石津嘉昭 憲法前文
森山英穂 NO MORE HIROSHIMA
清水岳夫 不戦が私の安全保障

刈田啓史郎 歴史から生き方を学ぶ
 田尻淳 私にとって日本国憲法は宝物
 新井真吾 九条を守ることこそ私の安全保障
 藤澤宜史 九条と共に生きる
 中島勉 非武装が私の安全保障
 吉井康彦 私にとって日本国憲法は後世への遺産です
 尾上雅俊 外交力
 大野静音 憲法が私の安全保障
 栂島敏雅・栂島伸子 ノーモア・ヒロシマ ノーモア
 ・ナガサキ ノーモア・フクシマ
 内田民子・内田達哉 意見広告が私の安全保障
 橋口正子 九条
 宮岡照彦 憲法9条を守ることが私の安全保障
 小園小夜子・小園徹 平和（へいわ）が私の安全保障
 谷代久恵 隣人
 稲村宏子 憲法
 鈴木敬二 日本国憲法第9条は世界に誇れる宝
 吉村静子 非武装
 北坂英一 憲法九条の讃歌を作り、ひろめたい
 赤坂耕志 誰もが「個人として尊重される」憲法の要です！
 渡辺正彦・祥子 非武装
 生田千津子 非暴力
 西村陽子・西村直子 もう80年、まだ80年。戦前であってはならない
 土尻俊雄 九条を守る！
 山崎誠躬 非核・非武装
 安川エリ子 第9条を守ろう
 大飼達夫・晴美 農家を増やす。山林や農地や河川や農具を農家が
 少なすぎて守れず。荒廃が急激に進んでいます。
 関根世志子 平和憲法が私の安全保障
 江田吉友 武器の撤廃と権力を常時監視
 藤村美千枝 食糧
 山田圭子・山田瑤子 核抑止論は欺瞞！核兵器に使う資金は平和に！
 松浦倫子 全ての人々が安心・安全な暮らし
 石井明美 紛争は外交交渉でが私の安全保障
 石原清美・西山明美 憲法9条が私の安全保障
 浅利親男 柏刈原発の地元 護憲・不戦・脱原発
 高田由美 天皇制の廃止。シビリアンコントロール（文民統制）
 羽江育子 否戦こそが
 小山善生 完全平和の理想に向けて「非武装中立」を心の原点として
 めげず貫いている人々をこちらめげずに応援してゆくこと。
 田中暉彦 平和の実現を望んでやみません
 水本和実 隣人愛
 西川恵子 憲法9条を世界に
 柏木もと 日本国憲法9条が私の安全保障
 北橋喜喜子 国同士のつながり
 寺西 義廣・緒方暖斗 九条死守
 大江宏・大江靖子 異なる意見を持つ人との対話が私の安全保障
 浅岡孝夫・浅岡喜美子・由生子 戦争をするな！
 八千代のマメ 非武装中立 平和外交
 根本准子 食糧自給率と憲法9条
 丹那誠子 憲法九条が私の安全保障
 岩本恵子 戦争は永久に地球より追放！
 佐藤皇太郎 軍需産業の弱体化が私の安全保障
 武智邦代 生命
 吉田恵子 内部被ばくによる体の設計図破壊を止める
 木村広昌 平和の祈りが私の安全保障
 田端ひろ子 これからもずっと戦後が続きますように
 打越紀子 一緒に歌うこと
 木下久美子 「非戦こそ」戦争で解決することなど何一つない
 井川和重 軍備全廃が私の安全保障
 森和恵・森隆子 憲法九条が私の安全保障
 小田川興 核廃絶が私の安全保障
 石山江美子・石山晋 子どもたちが笑顔で暮らせる世の中
 塩野たつ子・塩野龍男 平和を守る政治をつくること
 小泉秀輔 自由と平和
 かずばあば 国を越えての人と人とのつながり
 一箭浩志 食と農
 林亨・林敦子 軍拡より平和交渉を

中田哲二 核保有自体犯罪
 村上和子 憲法九条
 青山恵子・戸田義光 人権尊重が私の安全保障
 石原等 助け合いが私の安全保障
 森岡侑子 平和憲法
 大澤美恵子 話し合うこと
 洲上慶子 第九条を守りぬくこと
 黒木順子 人のつながり
 7月 -----
 梅田義治 「人権・平和・いのちとくらし」が私の安全保障
 川端春代・山下浩一 核廃絶と非武装
 藤澤睦志・浜中道男・浜中道子・小林一久・小林徳子・高木元治
 ガザの子どもたちにあんパンを
 アンテナをはるが私の安全保障
 神原秀文 非暴力
 齋藤邦彦・齋藤由理子 憲法九条を守ることが私の安全保障
 山田秋夫・山田秀子 思いやり予算は弱者へ！生きる希望を持てる社会へ！
 久米谷千恵子 民間平和交流こそ私の安全保障
 加藤浩道 日本国憲法前文
 川瀬和夫 全ての人の命を尊ぶ
 松田基子 国際交流
 坂口隆信 対話が私の安全保障
 石垣玲子 イキルが私の安全保障
 広重和子（厚木九条の会） 武力ではなく外交で
 中村玉枝・中村宗之 9条があるから今の80年がある
 前澤伸好 多様性を受け入れ、粘り強い対話
 阿部良之 「ヒロシマ」の心をまもりつづけること
 奥田剛 武力は憎しみを生む
 加藤敬 ミサイルより米(コメ) 核より学(ガク)
 冷麵愛好会 ねばり強く平和憲法を守る
 岡部健一 笑顔が私の安全保障
 松本忠司・松本真佐枝 88才母が私の安全保障
 澤田美樹子 核抑止論では真の平和は築けない
 山内博喜 日本は核兵器禁止条約に批准してください
 森下茂・鈴木多津子 家族との変わらぬ日常が私の安全保障
 大野鈴子・大野一則 武器は戦争の使者 憲法9条は平和の使者
 餅田正秋 平和への関心が私の安全保障
 岸塚雅雄 インクルーシブな社会の実現が私の安全保障
 藤井洋文 憲法九条
 西明雄 仁田坂喬一・仁田坂百合恵 米軍の日本駐留はまだ必要なのだろうか
 三島弘敬 国民との約束「不戦の誓い」
 三芳英教 憲法9条を文字通り正しく守る政府をつくること
 佐々木和子 おこめ
 渡久山修 否戦
 平橋芳雄 非武装中立が私の安全保障
 澤隆文 憲法がだいじ
 大竹啓之 お互いさま
 坂田光永・坂田章子 アジアのコスタリカへの道が私の安全保障
 宮下満智子 みんなの地球
 古澤望 全ての子どもに平和な世界を
 佐伯和子・佐伯紀男 日本国憲法
 大治朋子・大治浩之輔 どこの国の誰の子どもも殺さない！殺され
 ない！殺させない！が私の安全保障
 中本博光 軍備増強は間違いなく戦争へとつながる道であろう
 伊東みさを・竹内かおる 憲法9条が私の安全保障
 田中文字 平和憲法こそ最大の安全保障
 森本和子 まずは軍拡やめて！
 小山尚吾・小山和美 改憲反対！9条守ろう！
 諸橋泰樹 原発と基地のないことが私の安全保障
 竹下忠彦 改憲の動きをストップさせましょう
 船田美幸 トモニガンバリマジョウオウエンシテイマス
 島根飯南とはっぽの会 憲法9条
 別木由枝 憲法9条
 大谷弘子 日本国憲法前文が私の安全保障
 砂原美和子 戦争は絶対ダメ
 石原隆 核廃絶 恒久平和
 中根恵子 どこの国と戦争に加担しては絶対にいけません





8.6 新聞意見広告 2025 紙面（朝日新聞カラー）



手塚玲子	憲法九条が私の安全保障	岡原美知子	女性の人権は 人権だ！
松岡幹雄	人権の確立が私の安全保障	有田智樹	安心して暮らしたいという願い、“声”
松本優子	非武装	福山裕紀子	共に生きる
村上まり枝	憲法9条があるからまだ日本が好き	山口たか	ミサイルよりも米をくれ！
北島義久・北島可奈	諸国民の公正な信義に信頼して私たちは安全と 平和生活を保持するとして誓いを今こそ高々と 掲げ核、戦争阻止 ノーモアヒロシマ	横井妙子・室永敦己・初己	殺し殺される戦争、平和で生命が大切に される地球に生きたいです
瀧日豊文・久仁子	憲法九条	野村良子	子どもたちの笑顔の未来が私の安全保障
徳永敏博・徳永恂子	韓国映画「ハルビン」をみました。オススメです。	宮城韶子	世界中から戦争をなくす努力を
大森愛子	ネコが昼寝ができること。これが私の安全保障	宮城孝??	世界中が平和であるように
石村恵利子	りかい	針生圭吉	憲法を羅針盤として
成島有史	民主主義は自治なのです	荒井迪雄	軍事力 ノー 暴力 ノー
野尻育子・菅原和代	非戦が私の安全保障	石田弥生	人の命を奪い苦しめる戦争を二度と起こさないように。 軍事費を削減して教育に医療に福祉に農業に災害救援に
司馬裕美子・司馬育男	非戦が私の安全保障	小山和久	米国トランプに心底怒ってます
植山文雄	地球上の生命体と共に生きよう	和氣文子	戦争への道を許さないようしっかり連帯しよう
長田千代子	憲法と対話が私の安全保障	上ノ坊輝也	ウクライナ、ガザの市民に連帯を
中村信義	変わらぬ平和を	石原潔	平和憲法9条が私の安全保障
椎名弘子	政府議員司法（三権）が現行憲法を守ること	竹田良子	脱軍拡が私の安全保障
岡田春美	9条が私の安全保障	井上聖文・井上由美子	衣食住と仕事の保障が私の安全保障 / 日本国憲法の三原則が安全保障
唐井雄三	お互い様の心	古橋雅夫	憲法九条を実行させることが
松本文化	日本国憲法は世界中で共有したい約束事です	栗栖吉三郎	最も大事な生活と平和
一ノ木勝	広範な連帯で	竹本千代	戦争絶対反対 軍拡許せない -
富村友子	憲法順守が私の安全保障		
福山市議会市民連合	相互理解		
花ノ木清子	世界平和への列車は広島から永久発車	8月-----	
大石恭子	外交	永野三重	憲法9条が私の安全保障
下末かよ子	軍事費減らせ！		

8・6 ヒロシマ平和へのつどい



7:00 グラウンドゼロのつどい



8:15 ダイイン





広島大本営跡から原爆ドームを繋ぐ人間の鎖



反戦・反原発・反ジェノサイドデモ



紙屋町交差点右折 8・6 つどい実写真提供

活動報告 (第九条の会ヒロシマほか 関連団体、実行委員会含む)

- 6月 4日(水) 第九条の会ヒロシマ会報 125号発送 国際会議場3F 研修室
日本軍「慰安婦」問題解決 水曜行動(青山前) 12時～
#いつまで待たせる夫婦別姓 広島全国連帯毎水スタンディング 17時 本通り電停前(青山)
6～7日 上映会「声よ集まれ」広島弁護士会館
11日(水) #いつまで待たせる夫婦別姓 広島全国連帯毎水スタンディング 17時 本通り電停前(青山)
13日(金) 「広島への侵略と加害、天皇の戦争責任・「招爆責任」を考える」シンポジウム 広島市民交流プラザ5F 19時～
14日(土) ノーニュークス・アジアフォーラム報告 ～台湾がアジア初の「脱原発」達成 14時～ 国際会議場
20日(金) ピースリンク広島・呉・岩国 17時半～ 呉駅前街宣 & 例会
21日(土) 「沖縄戦の教訓を確認し、今何をすべきかを考える」つどい 広島 YMCA
22日(日) ストップ・アメリカ イラン攻撃反対緊急アクション 原爆ドーム前
23日(月) ストップ・アメリカ イラン攻撃反対緊急アクション 本通り電停前
ストップ・アメリカ イラン攻撃反対緊急アクション 原爆ドーム前
沖縄「慰霊の日」三線の集い 親水テラス 原爆ドーム向河岸
25日(水) 第九条の会ヒロシマ世話人会③ 14時～ 広島国際会議場3F 研修室
26日(木) 中国電力株主総会(脱原発株主の会 10時～& 本社前行動(上関ネット)
29日(日) 「世界核被害者フォーラム」クラファンキックオフイベント 広島市民交流プラザ
7月 2日(水) 第九条の会ヒロシマ世話人会③ 14時～ 広島国際会議場3F 研修室
5日(土) 「ヒロシマが再び『軍都』になるの? 高校生と考える…」 広島弁護士会館 12時～18時
6日(日) ウリ民族フォーラム 2025in ヒロシマ 国際会議場フェニックスホール 13時～
「被爆80年」を中国の人はどうとらえるか 広島国際会議場3F 研修室3 14時～
9日(水) 第九条の会ヒロシマ世話人会③ 14時～ 広島国際会議場3F 研修室
12日(土) 沼田鈴子さんの思い出を語る会 13時～ 広島市民交流プラザ6F
13日(日) 多民族・多文化共生社会の実現をめざして 14時～ 在日大韓基督教会広島教会
ストップ! 産廃汚染～安定型廃止と廃棄物処理法改正 13時～ 三原南方コミュニティーセンター
16日(水) 8.6新聞意見広告名簿整理① 13時～17時 広島国際会議場3F 研修室
17日(木) 8.6新聞意見広告名簿整理② 13時～17時 ゆいぽーと4F
18日(金) 本郷産廃行政裁判 14時～ 裁判所前 14時半～ 公判
19日(土) 8.6新聞意見広告掲載名簿作り 13時～17時 広島国際会議場3F 研修室
23日(水) 8.6新聞意見広告校正① 13時～17時 ゆいぽーと4F
24日(木) 8.6新聞意見広告校正② 13時～17時 ゆいぽーと4F
26日(土) 世界核被害者フォーラム・プレ企画 吉永小百合チャリティー朗読会 14時～ 県民文化センター
27日(日) 第8回共生フォーラム外国籍教員と「在日」の子どもたちの現状 広島市留学生会館 14時～
8月 5日(火) スペイン新聞社『エル・パイス』取材 広島市民交流プラザ テーマ: 軍力ではなく何を対峙させるか?
朝鮮人(被爆)犠牲者問題講演&追悼行事 広島市民交流プラザ6F 13時～
8・6ヒロシマ平和へのつどい 17:00～19:00 市民交流プラザ5F
6日(水) 7時 グラウンドゼロのつどい 広島大本営跡と原爆ドームを結ぶ「人間の鎖」ピースプロムナード
8時15分 追悼のダイイン
8時30分～ 反戦・反原子力・反ジェノサイドデモ
ピースプロムナード～中国電力本社前
9時15分～ 脱原発座り込み行動(中国電力本社前) →
HANWA 国際対話集会 反核のタベ 広島弁護士会館 14時～
「パレスチナを想う8・6広島をつどい」エソール広島 14時～
パレスチナのための8.6ビジュル「祈るだけでは十分ではない」 18時～
9日(土) 広島・長崎からパレスチナへ17時半～ キャンドルライト・ビジュル 18時～ 広島: 原爆ドーム前
10日(日) 「安保法制10年と憲法9条」湯浅一郎講演 広島流川教会 14時～
13日(水) 第九条の会ヒロシマ世話人会 広島国際会議場3F 研修室 14時～
15日(金) 「8・15原爆・反戦詩を朗読する市民のつどい」講師: 永田浩三さん 広島市民交流プラザ 14時～
24日(日) 韓国人原爆被害者支援の歩み 広島市民交流プラザ5F 研C 12:30～ ドゥロー・アーゴタさん
30日(土) 岩国基地強化と進む馬毛島の基地建設 広島弁護士会館 14時～
9月 7日(日) 9・7沖縄戦終結80年ヒロシマ集会 「人間の住んでいる島」他上映会 広島と沖縄をむすぶドゥシグワール
外国人・難民の声を聞くー広島市まちづくり条例制定ネット 広島市留学生会館 14時～
10日(水) 第九条の会ヒロシマ会報 126号発送 広島国際会議場3F 研修室 12時半～



小武正教さん写真提供



渡田正弘さん写真提供

お知らせ

◆教育勅語と戦争責任

ー教科書ネット・ひろしま第25回総会／記念学習会ー
9月20日(土) 17:00～19:30 広島弁護士会館3Fホール
講師：中村平さん(広島大学文学部教員)
報告：岸直人(教科書ネット・ひろしま)
参加費：1000円(学生・障がい者無料)
オンライン・事後視聴申込先：knet.hiroshima@gmail.com
主催：教科書問題を考える市民ネットワーク・ひろしま
連絡先：090-6830-6257(岸)

広島松井市長へ 署名にご協力を！
「教育勅語を使う職員研修」をやめることを求める
→ <https://chnng.it/Sm4XMGGJzN>
9月の広島市議会に提出 8/28現在 21779筆

◆阿波根昌鴻写真展 (全国巡回展)

9月30日～10月5日 広島県立美術館 入場無料
10月3日(金) 14時～ ギャラリートーク
4日(土) 13時半～ シンポジウム
主催：写真展実行委員会(全国)
協力：沖縄県人会 広島と沖縄をむすぶDougシグワー

◆広島安野・中国人被害者を追悼し歴史事実を継承する会

①和解を導いた力 Part5

ー被爆者・孟昭恩さんの生涯をふりかえる集会
10月18日(土) 14:00～16:30
広島弁護士会館2階大会議室
講師など：中国から遺族・孟憲法さんが来日
参加費：500円

②第18回 中国人受難者を追悼し

平和と友好を祈念する集い

10月19日(日) 13:30～14:30 安野発電所
「安野中国人受難之碑」前
参加費：無料
主催：広島安野・中国人被害者を追悼し歴史事実を継承する会
連絡先：080-3880-8340

◆第22回共生フォーラムセミナー

「韓国語を教えて40年ー在日2世として生きる」

10月19日(日) 14時半～ 広島市留学生会館2階研修室
講師：呉洸星(オガンソン)(広島国際学院高校教員)
参加資料代：500円(正会員、学生無料)
録画配信：会員対象に録画配信。メールでご連絡ください。
主催：NPO法人共生フォーラムひろしま
連絡先：Email: kyosei.fh@gmail.com 電話 070-3771-9235

◆VFP (ベテランズ・フォー・ピース：元軍人の会)

日本ツアー 広島集会

10月31日(金) 広島市民交流プラザ 18時～

講師：ケム・ハンター(元米海軍兵士)
形川健一(元海上自衛隊員)(予定)
会費：無料(カンパ歓迎) オンライン無
主催：ピースリンク広島・呉・岩国
連絡先：090-3373-5083(新田)



◆「パレスチナの状況から考える日本(広島)の平和」(仮) 九条の会・はつかいち 20周年記念講演会

11月1日(土) 14:00～16:30 廿日市活動センター研修室
講師：田浪亜央江さん(広島市立大学教員、中東地域研究)
参加費：500円
主催：九条の会・はつかいち
連絡先：090-3373-5083(新田)

◆ドキュメンタリー映画 金順岳(キム・スナク)の人生 『やさしく(보드랍게)』上映とトーク

11月9日(日) 13:30～16:30 広島市まちづくり
市民交流プラザマルチメディアスタジオ6F
トーク：李玲京さん(聖公会大学研究教授)
参加費：1500円(当日) 1300円(前売り・予約)
予約はチラシ参照、学生、障がい者無料

◆女性に対する暴力撤廃の国際デー

キャンドルアクション in ひろしま

11月25日(火) 17:30～ 原爆ドーム東側
内容：キャンドル点火・フルート演奏・リレートーク

◆日本軍「慰安婦」問題解決のための水曜街頭行動

毎月第1水曜日 12時～/10.1/11.5/12.3
広島市内本通り電停前(青山側)
主催：日本軍「慰安婦」問題解決ひろしまネットワーク
連絡先：090-3632-1410(土井)

◆核施設と軍事施設がひしめきあう青森県下北半島

ー原発、核燃サイクル施設、中間貯蔵施設、

米軍三沢基地、陸海空自衛隊

11月29日(土) 14:00～16:30 広島弁護士会館(予定)
講師：中道雅史さん(「核燃料廃棄物搬入阻止実行委員会」
「大MAGROCK/大間原発反対現地実行委員会」事務局長)
主催：上関原発止めよう！広島ネットワーク
さよなら原発ヒロシマの会
連絡先：090-7548-6558(溝田)



2025年度の会費(カンパ)をお願いします～す！

- 8.6意見広告2025を掲載できました。ご賛同くださった皆さんに感謝！今秋も、国の大軍拡・核抑止・原発帰還、広島松井市政の悪政に抗い、命・人権を守る活動を続けていきます。
- タックシールに皆さまの会費・賛同金など入金状況を記載しています。間違いがあれば、遠慮なくご連絡くださいますように。
- 8.6新聞意見広告掲載で会費まで食い込みました。会費25がまだの方、また再カンパなど、ご支援を、よろしくお願い致します。

事務局から

後記

- 8.6意見広告、今年も皆さんのおかげで掲載できました！ピカドンはわかるけどザーってなに？との質問が多かった。黒い雨、体内被曝のことを知ってほしい。そして非核へ！
- 長生炭鉱でついに頭蓋骨が回収できたが地元林官房長官は否定的で怒！石破首相の言うように国は責任を持って取組むべき。
- 10日ほど、子どもたち家族と涼しい野尻の夫の故郷で静養した。疲れ過ぎてた？寒いくらいで風邪をひいてしまった。(＞_＜)(土)
- 戦後80年。国と私たちの考えが乖離しすぎて重い。でも秋もみんな頑張らね。猛暑が続きますので、ご自愛のほど。